

# 公益社団法人日本地球惑星科学連合 平成 29 年度 第 5 回理事会

開催日時 平成 30 年 1 月 23 日 (火)  
15 時 00 分から 18 時 00 分

開催場所 東京大学理学部 3 号館 320 号室  
(東京都文京区本郷 7-3-1)



# 平成 29 年度第 5 回理事会議事次第

## 1. 開 会

### 議事内容

## 2. 審 議 事 項

- 第 1 号議案 新入会員承認の件
- 第 2 号議案 賛助会員承認の件
- 第 3 号議案 委員会委員承認の件
- 第 4 号議案 国際金星会議 2018 第 74 回藤原セミナー「あかつき」が拓く金星の科学協賛の件
- 第 5 号議案 「成層圏・対流圏の諸過程と気候影響研究」に関する 2018 年総会協賛の件
- 第 6 号議案 慶弔規則の改訂について
- 第 7 号議案 その他「男女共同参画学協会連絡会の分担金の見直しについて」

## 3. 報 告 事 項

- 1. 川幡穂高 代表理事職務報告
- 2. 田近英一 理事(広報担当)職務報告
- 3. 中村正人 理事(顕彰担当)職務報告
- 4. 古村孝志 理事(総務担当)職務報告
- 5. 北和之 理事(財務担当)職務報告
- 6. 倉本圭 理事(ジャーナル担当)職務報告
- 7. 浜野洋三 理事(大会運営担当)職務報告
- 8. グローバル戦略委員会活動報告
- 9. 教育検討委員会活動報告
- 10. 情報システム委員会活動報告
- 11. その他

## 4. 閉 会

(資料)

前回議事録

平成 29 年度第 4 回理事会議事録 . . . . .	P.1- P.6
-------------------------------	----------

審議事項

第 1 号議案 新入会員承認の件	P.7-8
第 2 号議案 賛助会員承認の件	P.9
第 3 号議案 委員会委員承認の件	P.10-13
第 4 号議案 国際金星会議 2018 第 74 回藤原セミナー「あかつき」が拓く金星の科学協賛の件	P.14-22
第 5 号議案 「成層圏・対流圏の諸過程と気候影響研究」に関する 2018 年総会協賛の件	P.23-27
第 6 号議案 慶弔規則の改訂について	P.28
第 7 号議案 その他 「男女共同参画学協会連絡会の分担金の見直しについて」	P.29-30

報告事項

1. 川幡穂高代表理事職務報告	
2. 田近英一理事(広報担当)職務報告	P.31
3. 中村正人理事(顕彰担当)職務報告	P.32-35
4. 古村孝志理事(総務担当)職務報告	P.36-47
5. 北和之理事(財務担当)職務報告	別添
6. 倉本圭理事(ジャーナル担当)職務報告	P.48-50
7. 浜野洋三理事(大会運営担当)職務報告	P.51-56
8. グローバル戦略委員会活動報告	P.57-62
9. 教育検討委員会活動報告	P.63
10. 情報システム委員会活動報告	P.64-65
11. その他	

その他の資料

規則 . . . . .	別添
--------------	----

1. 開催日時 平成 29 年 11 月 28 日 (火)

15 時 00 分から 18 時 20 分

2. 開催場所 東京大学理学部 1 号館 331 号室

(東京都文京区本郷 7-3-1)

3. 出席者 理事数 19 名

出席理事 14 名 (定足数 10 名 会議成立)

出席監事 1 名

オブザーバー 14 名

4. 議長 理事 川幡 穂高

5. 出席役員

理事 川幡 穂高

理事 田近 英一

理事 中村 正人

理事 古村 孝志

理事 小口 高

理事 小口 千明

理事 奥村 晃史

理事 北 和之

理事 木村 学

理事 倉本 圭 (ZOOM 出席)

理事 西 弘嗣

理事 浜野 洋三

理事 原田 尚美

理事 道林 克禎

監事 氷見山 幸夫

6. 出席オブザーバー

宇宙惑星科学セクションボードプレジデント 高橋 幸弘

大気水圏科学セクションプレジデント 蒲生 俊敬

大気水圏科学セクションバイスプレジデント 杉田 倫明 (ZOOM 出席)

大気水圏科学セクション幹事 川合 義美

地球人間圏科学セクションプレジデント 春山 成子

固体地球科学セクションプレジデント 大谷 栄治

固体地球科学セクションバイスプレジデント 田中 聡  
学協会長会議幹事会（議長・日本第四紀学会） 齋藤 文紀  
学協会長会議幹事会（日本地球化学会） 塚本 尚義  
学協会長会議幹事会（地球電磁気・地球惑星圏学会） 渡部 重十  
情報システム委員 村山 泰啓  
グローバル戦略委員 サイモン・ウォリス  
国際コーディネータ 末広 潔  
海洋研究開発機構・主任研究員 中川 貴司

15時00分、理事の定数に足る出席を確認後、会長川幡穂高は理事会が成立することを宣言し、第4回理事会を開始した。インターネット電話 ZOOM を利用し、遠隔地から参加する倉本圭理事および杉田倫明バイスプレジデントが審議に参加できることを確認した。

#### 【前回議事録確認】

第3回理事会議事録について、確認し、了承された。

#### 7. 審議事項

##### 第1号議案 新入会員承認の件

定款第8条2項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を承認した。

##### 第2号議案 委員会委員承認の件

環境災害対応委員会、ジャーナル編集委員会、ジャーナル企画経営委員会（タスクフォース：地震学会論文賞選考担当）の新規委員を承認した。

##### 第3号議案 リソスフェア・マンツルのダイナミクスに関する第2回アジア・太平洋域ワークショップ共催申請承認の件

リソスフェア・マンツルのダイナミクスに関する第2回アジア・太平洋域ワークショップを連合として共催することを審議した。LOC委員を務める中川貴司氏によりワークショップについて説明があった。

審議の結果共催することを承認した。ただし、共催申請についてはより慎重に対応した方が良いとの意見もあり、固体地球科学セクションとグローバル戦略委員会から次回理事会に2018年度の活動方針の中での本件の位置づけについて詳細を提出することとした。

本ワークショップへの固体地球科学セクションよりの拠出金については、同セクションから2018年度予算要求するが、最終的には予算委員会での同セクションへの予算配分額に基づき、セクションで決定される運びとなる。

##### 第4号議案 日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）候補者募集要項承認の件

2018年度より開始する日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）授与に関して、候補者募集要項を承認した。

## 第5号議案 その他（ハラスメントアンケート実施について）

ダイバーシティ推進委員会よりハラスメントに関する議論が報告され、ハラスメントに関する取り組み実施前の実態把握アンケートの実施について審議事項として提出された。

アンケートについては実施することを承認した。アンケートデータの取り扱いには十分留意することが必要であるとの意見があった。また、AGUなどの事例も情報として共有された。

## 8. 報告事項

### (1) 川幡穂高代表理事職務報告

川幡会長より、日本陸水学会が退会届を提出した旨報告があった。

また連合会員が多く所属するが連合に未加入である学会に、入会を呼びかけるよう提案があり、これを了承した。

### (2) 田近英一理事（広報普及担当）職務報告

広報普及委員会の活動報告があった。JGL最新号の発行について、パブリックセッションの提案と採択について、および「高校生のための冬休み講座」の準備状況について報告があった。

### (3) 中村正人理事（顕彰担当）職務報告

三宅賞の審査委員会の活動について報告があった。受賞者の号数を地球化学研究協会学術賞三宅賞から連番とするかどうかを討議し、連番とすることとした。

フェローの候補者募集期間中であり、積極的な応募を求めていることが報告された。

### (4) 古村孝志理事（総務担当）職務報告

前回理事会以降に連合が承認した協賛・後援について報告があった。

選挙の進行状況について報告があった。セクションプレジデント選挙が終了し、12月には理事候補者選挙の公示、候補者受付募集を予定している。

### (5) 北和之理事報告（財務担当）職務報告

2017年度（平成29年度）決算予想について報告があった。

2017年度決算は収入及び支出がほぼ均衡した決算となる予想であることが報告された。なお2017年度に使用する必要のある2016年度黒字分の1部である500万円については2018年大会の学生旅費補助に使用するために資金化することが了承された。

また寄付金受け入れ状況について報告があった。

### (6) 倉本圭理事（ジャーナル担当）職務報告

論文投稿・出版状況について報告があった。Elsevier社より、同社の抄録・引用文献データベースScopusにPEPSが登録されることが決定したとの連絡を受けた。

科研費申請時の計画調書についても報告があった。

ジャーナル運営委員会のもとにタスクフォースを設け、地震学会論文賞選考委員として

対応することを了承した。

連合のロゴを掲載する連合参加学会の国際誌についても、PEPS 経費で AGU、EGU などの海外での PEPS/JpGU ブースで積極的に広報活動を行なっていることが報告された。科学研究費補助金のジャーナル関係のカテゴリーに提出した最終書類が提示された。EPS 誌との共同出版を地球惑星科学コミュニティとして支えるとともに、PEPS、EPS、JpGU 参加学会の国際誌を盛り上げ、日本の地球惑星科学全体として国際情報発信を行なう方針であるとの説明があった。

#### (7) 浜野洋三理事（大会運営担当）職務報告

2018 年連合大会の概要と準備状況について報告があった。セッション採択後、編成会議を経て、コンピーナー全員が納得するコマ割り案が確定したことが報告された。コマ割り案は 12 月 1 日に一般にも公開され、1 月 10 日から投稿募集が開始される。なお大会終了の翌日（金曜日）に、2 件の千葉に関係の深いエクスカーションを計画しているので、是非周辺の皆様にも宣伝してほしいとの依頼があった。

海外からの大会参加者への対応として VISA 申請用の書類の発行を事務局が行っており、これまでは無料で発行作業を行っていたが、申請者が多く、連合として費用負担が大きいことから、今後は受益者負担の原則に基づき、申請者に実費程度を負担していただくこととした、との報告があった。

今後は参加者の便宜と連合の財政基盤を安定させるため、展示企画の拡大に力を入れていることについて報告があり、新規出展者勧誘に関して協力の要請があった。

#### (8) グローバル戦略委員会活動報告

グローバル戦略委員会の活動報告があった。各学協会へのアンケート調査に基づき、アジア情勢への対応状況などが報告された。来年実施される AOGS-EGU のジョイントミーティングについては、松本委員が参加・対応することが報告された。

委員会人事について報告があり高橋幸弘委員が委員長代行として就任したことが報告された。新たに斎藤文紀氏、中川貴司氏、安成哲平氏を新委員として招致することが討議され、これを了承した。

また川幡会長から GSA への参加報告があった。参加後に発表者は発表につかった PPT ファイルをアップロードするシステムが特に画期的であったとの報告があった。

#### (9) 教育検討委員会活動報告

教育課程小委員会、教育国際対応小委員会の活動について報告があった。本年度の教員免許更新講習の開催報告があった。

次年度の教員免許講習の実施を検討したが本年度の反省点を踏まえ事業要領の改善をすることです承した。

#### (10) 環境災害対応委員会活動報告

11月26日、27日に仙台国際センターにて開催された防災推進国民大会への参加について報告があった。高橋幸弘宇宙惑星科学セクションプレジデント、山里平委員が対応し、講演を行った。

(11) 情報システム委員会活動報告

村山委員より、プレプリントに関する報告があった。AGUから、プレプリントサーバ「ESSOAr」の立ち上げについて連絡があった。小口委員長より、プレプリントの現状について報告があった。その他、情報交換を行った。

(12) ユニオンサイエンスボード報告

10月30日に日本学術会議地球惑星科学委員会藤井良一委員長より「日本地球惑星科学連合大会ユニオンサイエンスボードにおける検討のお願い」を受け取ったこと、またそれに対応して11月20日にユニオンサイエンスボード会議を開催し、夢ロードマップの構想を議論したことを報告した。今後の情報の取りまとめなどのルートについて模式図を用いて説明があった。

2019年2月に大型研究の公募が見込まれるため、2018年5月の大会でユニオンセッションを開催し議論を深める。そのため2017年12月には代議員、セクションボードメンバー、参加学協会に依頼し、中期および長期の計画に関する情報を募集する。依頼文について案が提出され、了承された。

ユニオンサイエンスボードの中にタスクフォースを設置しデータサイエンスに関する議論を深めていくことを目指す。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(18時20分)

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席役員は次に記名・押印する。(捺印欄配布時省略)

平成29年11月28日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第4回理事会

出席理事 川幡 穂高 印

出席理事 田近 英一 印

出席理事 中村 正人 印

出席理事 古村 孝志 印

出席理事 小口 高 印

出席理事 小口 千明 印

出席理事	奥村	晃史	印
出席理事	北	和之	印
出席理事	木村	学	印
出席理事	倉本	圭	印
出席理事	西	弘嗣	印
出席理事	浜野	洋三	印
出席理事	原田	尚美	印
出席理事	道林	克禎	印

平成29年度会員数推移

	正会員				准会員				大会会員				AGU会員							
	入会	変更(+)	退会(-)	喪失(-)	入会	変更(-)	退会(-)	喪失(-)	入会	退会(-)	削除(-)	現会員数	入会	退会(-)	削除(-)	現会員数	入会	退会(-)	削除(-)	現会員数
3月末現在					8115							663				703				1238
4月	126	49		1	8289						2	677	70			773	16			1254
5月	226	43		2	8549							944	400			1173	42			1296
6月	5	3		810	4	7743					6	936	0			1173	2			1298
7月	4			6	7741		2					935	0			1173	4			1302
8月	3			4	7737		0					935	0		1164	9	15		1	1316
9月	2				7739		0					935	10		2	17	11		3	1324
10月	16	1		2	7751		2	1	1	3	932	18	22		2	33	22		2	1344
11月	2			4	7749		2			63	871	0	0			33	12			1356
12月	3			4	7747		0					871	0			33	50			1406
1月																				
2月																				
3月																				
	387	96	22	810	19	7747	3	96	0	74	871	498	174	0	1168	33	174	0	6	1406

2017/12/31 正会員 7747名

大会会員 33名

AGU会員 1406名

変更  
准会員から正会員へ

	団体会員		賛助会員	
	入会	退会	入会	退会
3月末現在				
4月	50		50	6
5月	50		50	6
6月	50		50	6
7月	50		50	6
8月	50		50	6
9月	50		50	6
10月	50		50	6
11月	50		50	6
12月	50		50	6
1月				
2月				
3月	0	0	0	0

全会員

3月末現在	10,719名
4月	10,993名
5月	11,962名
6月	11,150名
7月	11,151名
8月	9,997名
9月	10,015名
10月	10,060名
11月	10,009名
12月	10,057名
1月	名
2月	名
3月	名

平成 29 年度 12 月度 入会会員

個人情報<sub>の</sub>為非公開とする

Japan Geoscience Union  
Supporting Member Application

Applicant	Name (to be published)	American Journal Experts
Organization /Company	Name	American Journal Experts
	Representative	Lindsay Miller
	Title	Strategic Partnerships Manager
	Address	601 West Main Street, Suite 102, Durham, North Carolina
	Zip Code	27701
	Telephone	+1 (919) 704-4253
	Website	www.aje.com
	Brief description of your business	
Contact Person	Name	Lindsay Miller
	Department	Growth and Marketing
	Title	Strategic Partnerships Manager
	Address	601 West Main Street, Suite 102, Durham, North Carolina
	Zip Code	27701
	Telephone	+1 (919) 704-4253
	Email Address	Lindsay.miller@researchsquare.com
	Telephone	+1 (919) 704-4253
Annual Due	<p style="text-align: center;">_3_ Units</p> <p>* 1 unit is 10,000JPY * 3 units / year at the minimum</p>	

Signature



Date

January 5, 2018

## 大会運営委員会

任期:2018年5月末まで

2018年1月18日現在

No.	氏名	役職	所属
1	浜野 洋三	委員長	海洋研究開発機構
2	興野 純	副委員長	筑波大学
3	北 和之	アドバイザー	茨城大学
4	高橋 幸弘	アドバイザー	北海道大学
5	道林 克禎	委員	静岡大学
6	中村 昭子	委員	神戸大学
7	和田 浩二	委員	千葉工業大学惑星探査研究センター
8	能勢 正仁	委員	京都大学
9	財城 真寿美	委員	成蹊大学
10	赤坂 郁美	委員	専修大学
11	小谷 亜由美	委員	名古屋大学
12	縫村 崇行	委員	千葉科学大学
新規	中川 貴司	委員	海洋研究開発機構
新規	飯田 佑輔	委員	関西学院大学
新規	山田 育穂	委員	中央大学
退任	岩上 直幹		東京大学
退任	近藤 昭彦		千葉大学環境リモートセンシング研究センター

## 教育国際対応小委員会

任期:2018年5月末まで

2018年1月18日現在

No.	氏名	所属
1	川村教一	秋田大学教育文化学部
2	熊野善介	静岡大学教育学部
3	中井咲織	立命館宇治中学校・高等学校
4	松本 剛	琉球大学理学部
5	瀧上 豊	関東学園大学
新規	小俣 珠乃	国立研究開発法人海洋研究開発機構

## 環境災害対応委員会

任期:2018年5月末まで

2018年1月18日現在

No.	氏名	役職	選出母体	所属
1	奥村 晃史	委員長	環境・災害担当理事	広島大学大学院文学研究科
2	井出 哲		理事副担当	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻
3	川畑 大作	副委員長	日本地質学会	産業技術総合研究所地球科学情報研究部門
4	青木 賢人		日本地理学会	金沢大学 人間社会学域地域創造学類環境共生コース
5	北 和之		理事/大気化学会	茨城大学理学部
6	田中 賢治		先期委員長	京都大学防災研究所
7	竹村 貴人		日本応用地質学会	日本大学文理学部地球科学科
8	井口 隆		日本応用地質学会	防災科学技術研究所
9	山里 平		日本火山学会	気象研究所
10	三浦 大助		日本火山学会	電力中央研究所 地球工学研究所 地圏科学領域
11	塩竈 秀夫		日本気象学会	国立環境研究所地球環境研究センター
12	小司 禎教		日本気象学会	気象庁 気象研究所 気象衛星・観測システム研究部 第二研究室長
13	葛葉 泰久		水文・水資源学会	三重大学大学院生物資源学研究科
14	河島 克久		日本雪水学会	新潟大学災害・復興科学研究所
15	松本 弾		日本堆積学会	産業技術総合研究所
16	宮地 良典		地学団体研究会	産業技術総合研究所
17	山本 裕二		地球電磁気・地球惑星圏学会	高知大学 海洋コア総合研究センター
18	松島 政貴		地球電磁気・地球惑星圏学会	東京工業大学大学院地球惑星科学系
19	小荒井 衛		日本地質学会	茨城大学理学部理学科地球環境科学コース
20	柳澤 教雄		日本地熱学会	産業技術総合研究所 再生可能エネルギー研究センター
21	宇根 寛		日本地図学会	国土地理院
22	浅野 敏久		地理科学学会	広島大学大学院総合科学研究科
23	後藤 真太郎		地理情報システム学会	立正大学地球環境科学部
24	小荒井 衛		(東京地学協会)	茨城大学理学部理学科地球環境科学コース)
25	村山 良之		東北地理学会	山形大学大学院教育実践研究科
26	大月 義徳		東北地理学会	東北大学大学院理学研究科
27	作野 裕司		日本リモートセンシング学会	広島大学大学院工学研究科社会環境システム専攻
28	知北 和久		日本陸水学会	北海道大学大学院理学研究院自然史科学部門
29	卜部 厚志		日本第四紀学会	新潟大学災害・復興科学研究所
30	鈴木 正哉		日本鉱物科学会	産業技術総合研究所地質調査総合センター
31	小俣 雅志		日本活断層学会	株式会社バスコ
32	松島 信一		日本地震学会	京都大学防災研究所
33	林 武司		日本水文科学会/日本地下水学会	秋田大学 教育文化学部地域文化学科 地域社会コース 地域環境領域
34	青木 久		日本地理教育学会	東京学芸大学教育学部地理学分野
35	北村 晃寿		日本古生物学会/地球環境史学会	静岡大学理学部
36	益田 晴恵		日本地球化学会	大阪市立大学理学院理学研究科生物地球系専攻
37	小口 千明		日本粘土学会	埼玉大学大学院理工学研究科
新規	高橋 幸弘			北海道大学大学院理学院宇宙理学専攻

## 学生優秀発表賞小委員会

任期:2018年5月末まで

2018年1月18日現在

No.	氏名		所属
1	成瀬 元	固体地球科学	京都大学大学院理学研究科
2	佐々木 晶	宇宙惑星科学	大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻
3	諸田 智克	宇宙惑星科学	名古屋大学大学院環境学研究科
4	伊藤 進一	大気水圏科学	東京大学大気海洋研究所
5	須貝 俊彦	地球人間圏	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻
6	河上 哲生	固体地球科学	京都大学大学院理学研究科
7	田所 敬一	固体地球科学	名古屋大学地震火山研究センター
8	前野 深	固体地球科学	東京大学地震研究所
9	北村 晃寿	地球生命科学	静岡大学理学部地球科学教室
新規	青木 賢人	地球人間圏	金沢大学地域創造学類

## 共催・協賛金供出の例

2018年1月18日現在

No.	行事名	主催者	開催日	金銭・人的援助の内容	申請の種類	経費負担対象
1	陸水物理研究会2016年度 帯広大会	陸水物理研究会	2016年11月12日(土) ～2016年11月13日 (日)	5万円程度 参加者の旅費 として	協賛	大気水圏科学 セクション
2	第4回大気エアロゾルシンポ ジウム -フラックカーボン-	(地独)北海道立総合研 究機構環境科学研究所 センター、酪農学園大 学	2016年11月25日(金)	5万円程度 参加者の旅費 として	協賛	大気水圏科学 セクション
3	第4回非静力学モデルに関 する国際ワークショップ	東京大学大気海洋研 究所、理化学研究所、 日本気象学会非静力 学数値モデル研究連 絡会	2016年11月30日(水)～ 2016年12月2日(金)	21万円 予稿集の印刷代 として	協賛	大気水圏科学 セクション
4	リソスフェア・マントルのダイ ナミクスに関する第2回アジア ・太平洋域ワークショップ	AGMT2018実行委員会	2018年8月6日(月)～ 2018年8月9日(木)	基調講演者2名の旅費一 部援助:20万円×2名 基調講演者5名分の参加 費3万円×5名	共催	固体地球科学 セクション

2017年12月31日

公益社団法人日本地球惑星科学連合会長 川幡穂高 様

共催・協賛・後援承認申請書

申請団体名：国際金星会議 2018 LOC

申請者住所：兵庫県神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学理学研究科

申請者名：林 祥介

行事名（英訳名）	国際金星会議2018 第74回藤原セミナー「あかつき」が拓く金星の科学 （英文公式名：International Venus Conference 2018 The 74th Fujihara Seminar “Akatsuki Novel Development of Venus Science”） 会議の種類：（ <input type="checkbox"/> 国内会議 <input checked="" type="checkbox"/> 国際会議 ）
主催者名	International Venus Science Community
開催日	2018年9月11日（火）～2018年9月14日（金）
開催場所、所在地	場所：ヒルトンニセコビレッジ 所在地：〒048-1592 北海道虻田郡ニセコ町東山温泉
申請の種類	<input type="checkbox"/> 共催 （企画又は運営に参画し共同で開催する） <input checked="" type="checkbox"/> 協賛 （趣旨に賛同し、必要に応じて金銭的・人的支援をする） <input type="checkbox"/> 後援 （趣旨に賛同し、必要に応じて人的支援をする） <input type="checkbox"/> その他 （ ）
金銭・人的援助の有無	無・ <input checked="" type="checkbox"/> （具体的に：海外からの参加者向けの旅費並びに宿泊費）
行事趣旨	「あかつき」の科学成果を世界に発信するとともに、大気のみならず金星全般にわたる科学的諸問題に関する議論と理解の共有を図る場とする。「あかつき」観測の成果の下に地上観測や理論研究の成果を交えての金星大気構造の議論をはじめとして、惑星内部から電磁気環境にいたるまで金星に関する多角的・横断的・包括的な議論を促し、金星科学全体の発展に貢献する。
共催、協賛、後援等団体名（申請中も含む）	・ PLANET-C Project Team / Japan Aerospace Exploration Agency, ・ Center for Planetary Science, ・ 藤原科学財団
希望する共催・協賛・後援の名称	<input checked="" type="checkbox"/> 公益社団法人日本地球惑星科学連合 その他（大気水圏科学セクション・宇宙惑星科学セクション）

連絡先 (受理通知等送付先)	所在地：〒603-8555 京都府京都市北区上賀茂本山 京都産業大学理学部1号館1417号室 団体名：国際金星会議2018 LOC 担当者名：安藤 紘基 TEL：080-3202-0960 FAX： E-mail：akatsuki-v2018loc@cps-jp.org
参加費等	( <input type="checkbox"/> 無料 <input checked="" type="checkbox"/> 有料 ) 参加予定人数 100 人 会員 個人 5,000円 (早期申し込みかつ全日程参加) / 28,000円 (それ以外) 学生も同額 団体料金は設定なし 非会員 会員の場合と同様
会議のホームページ	<a href="https://www.cps-jp.org/~akatsuki/venus2018/">https://www.cps-jp.org/~akatsuki/venus2018/</a>

\*選択する項目については囲むか、チェックをお入れ下さい。

\*会議・行事の趣旨のわかる、開催案内、プログラム、組織委員会名簿、会議全体の予算、開催案内、プログラム等を添付して申し込み下さい。

\*原則として、経費や人的負担はいたしかねますが、必要あれば妥当性を判断しますので希望をお知らせください。

\*公益社団法人地球惑星科学連合の名称のほか、同セクション名や委員会名での共催・協賛・後援ができますので、ご希望をお知らせ下さい。

\*2013年12月19日理事会書式改正

2018年12月31日

## JpGUによる国際金星会議 2018 への協賛のお願い

公益社団法人日本地球惑星科学連合

会長 川幡穂高 様

「国際金星会議 2018」の開催にあたり JpGU の協賛とご支援をお願いいたします。JpGU 申請様式による申請書と関連資料を以下に添付します。

1. 共催・協賛・後援承認申請書
2. 広報ポスター
3. セッションスケジュール(現状暫定版)
4. 会議 WEB ページ (現状暫定版)

以下申請書との重複になる部分が多々ありますが、本会議の説明を簡略に記しておきます。

・公式名称：International Venus Conference 2018

The 74th Fujihara Seminar : “Akatsuki Novel Development of Venus Science”

・主催：International Venus Science Community

- 共催：PLANET-C Project Team / Japan Aerospace Exploration Agency

- 共催：Center for Planetary Science (神戸大学惑星科学研究センター)

・WEB ページ：<http://www.cps-jp.org/~akatsuki/venus2018/>

・日時：2018年9月11日～2018年9月14日

・場所：ヒルトンニセコビレッジ (〒048-1592 北海道虻田郡ニセコ町東山温泉)

・予想参加人数：100名 (内、海外からの参加者は60名程度)

・本会議開催の経緯と目的：

金星探査機「あかつき」は2015年12月に軌道再投入に成功し、それ以降順調に観測を続けてきた。現在、金星を観測しているのは「あかつき」のみであり、雲頂に見られる大規模な縞模様や赤道ジェットをはじめとして、過去の金星ミッションで知られることのなかった新しい金星の姿を世界に先駆けて見出しつつある。これまで国際金星会議は全5回開催され、いずれも世界各地から金星研究者が集った。我々はこの会議を、「あかつき」で得られた研究成果を世界に発信し、且つ「あかつき」がもたらす新しい金星

科学の知見を共有する絶好の機会であると捉え、このたび日本でこれを開催するに至った。

本会議は幸いにして藤原財団の助成をいただくことができ、The 74th Fujihara Seminar: “Akatsuki Novel Development of Venus Science” として実施する。藤原財団の助成により会場費が賄え一定数の旅費援助が実現できるが、事前に多くの金星大気研究者にコンタクトしたところ、若手研究者の旅費支援の要望が大きく財団の助成だけでは賄いきれないと判断し、JpGU の協賛をお願いしたく本状を提出する次第である。

本会議では、「あかつき」観測とそのデータ解析に従事してきた研究者に加え、従来のミッションや地上観測、数値実験等の理論的手法など多様な手法を用いた様々な研究者の参集を得て、「あかつき」がもたらしつつある新たな金星大気の様子を模索する。また、国際金星会議は、大気だけではなく固体惑星や惑星・惑星間空間電磁気学といった観点からの金星研究者も多数参加する会合であり、「あかつき」を機に広範な分野の研究者が参集してもらうことで、金星にまつわる様々な問題の共有とその多面的な理解の促進を目指している。

本会議のこのような性格は、地球科学をあらゆる視点から網羅する JpGU のそれと相似であり、本会議にて多角的かつ包括的な議論の場を設けることで JpGU が金星科学全体の発展に寄与するのみならず、翻って JpGU の裾野の拡大にも繋がるものと信じるところであり、ついては、JpGU から本会議への協賛とご支援をいただけるよう御願ひする次第である。なお、本会議への日本からの参加者の多くが所属する大気水圏科学セクションと宇宙惑星科学セクションには本件についての御支持を 12 月 26 日付けでお願いしている。

・お願いしたい財政的支援内容：

海外からの若手参加者向けの旅費ならびに宿泊費として JpGU 支援枠の設定：  
できれば 3 名を対象に 90 万円（欧州または北米を念頭に一人当たり 30 万円）。

・本会議の SOC メンバー

Martha Gilmore (Wesleyan University, USA), 林祥介 (CPS/神戸大学),  
Sanjay Limaye (University of Wisconsin-Madison, USA), 松田佳久 (東京学芸大学),  
Kevin McGouldrick (University of Colorado Boulder, USA), 中村正人 (ISAS/JAXA),  
Agustín Sánchez-Lavega (Universidad del País Vasco / Euskal Herriko Unibertsitatea, Spain),  
佐藤毅彦 (ISAS/JAXA), Thomas Widemann (Observatoire de Paris, France),  
Colin Wilson (University of Oxford, UK), Ludmila Zasova (IKI, Russia)

・本会議の LOC メンバー

中村正人 (ISAS/JAXA), 佐藤毅彦 (ISAS/JAXA), 松田佳久 (東京学芸大学),  
林祥介 (CPS/神戸大学), 高橋幸弘 (北海道大学), 今村剛 (東京大学),  
堀之内武 (北海道大学), 石渡正樹 (北海道大学), 山本勝 (九州大学),

はしもとじょーじ（岡山大学），高木征弘（京都産業大学），高橋芳幸（神戸大学），杉山耕一朗（松江高専），杉本憲彦（慶應義塾大学），小高正嗣（北海道大学），小郷原一智（滋賀県立大学），黒田剛史（NICT），村上真也（ISAS/JAXA），檜村博基（CPS/神戸大学），高木聖子（北海道大学），安藤紘基（京都産業大学）

・窓口担当者の連絡先：

国際金星会議 2018 LOC

安藤 紘基（京都産業大学 理学部 日本学術振興会特別研究員 PD）

〒603-8555 京都府京都市北区上賀茂本山

京都産業大学 理学部 1号館 1417 室

akatsuki-v2018loc@cps-jp.org

以上、よろしくご検討願います。

国際金星会議 2018 LOC

神戸大学 理学研究科

惑星学専攻／惑星科学研究センター 教授

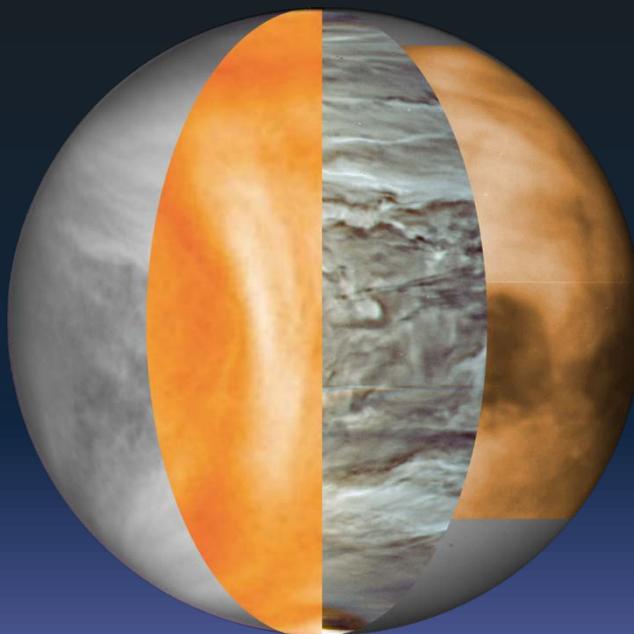
林 祥介

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町 1-1

shosuke@gfd-dennou.org

# The 74th Fujihara Seminar: "Akatsuki" Novel Development of Venus Science International Venus Conference 2018

Date: September 11-14, 2018 / Venue: Hilton Niseko Village, Hokkaido, Japan



*Different faces of Venus as viewed with Akatsuki's onboard cameras. From left to right, UVI (365 nm), LIR (8-12  $\mu\text{m}$ ), IR2 (1.735 + 2.26  $\mu\text{m}$  composite), and IR1 (0.90  $\mu\text{m}$  night-side image overlaid on day-side image).*

The Akatsuki team and community in Japan are pleased to announce the 2018 Venus conference, the successor of previous Venus conferences (La Thuile, Aussois, Sicily, and Oxford). The conference is intended to cover all areas of Venus science with special focus on new results obtained from Japan's Venus Climate Orbiter "Akatsuki". Results from previous missions, from ground-based observations, numerical simulations, and theoretical works of various aspects of Venus are all welcome.

Although the dates, 11-14 September 2018, will not be skiing season, you will be able to enjoy a beautiful and comfortable resort in Hokkaido. We hope this conference is fruitful and will contribute to the advancement of planetary science.

## International Venus Conference 2018 Organizing Committee

Martha Gilmore (Wesleyan University, USA)  
Yoshi-Yuki Hayashi (Kobe University, Japan)  
Sanjay Limaye (University of Wisconsin-Madison, USA)  
Yoshihisa Matsuda (Tokyo Gakugei University, Japan)  
Kevin McGouldrick (University of Colorado Boulder, USA)  
Masato Nakamura (ISAS/JAXA, Japan)  
Agustín Sánchez-Lavega (Universidad del País Vasco / Euskal Herriko Unibertsitatea, Spain)  
Takehiko Satoh (ISAS/JAXA, Japan)  
Thomas Widemann (Observatoire de Paris, France)  
Colin Wilson (University of Oxford, UK)  
Ludmila Zasova (IKI, Russia)

Host Organization: International Venus Science Community

Co-host Organizations: PLANET-C Project Team / Japan Aerospace Exploration Agency  
Center for Planetary Science (<https://www.cps-jp.org/>)

Financial Support: The Fujihara Foundation of Science ([http://www.fujizai.or.jp/e\\_gaiyo.htm](http://www.fujizai.or.jp/e_gaiyo.htm))

Contact: [akatsuki-v2018inquiries@cps-jp.org](mailto:akatsuki-v2018inquiries@cps-jp.org)  
Registration will open in early 2018.  
Please visit <https://www.cps-jp.org/~akatsuki/venus2018/>



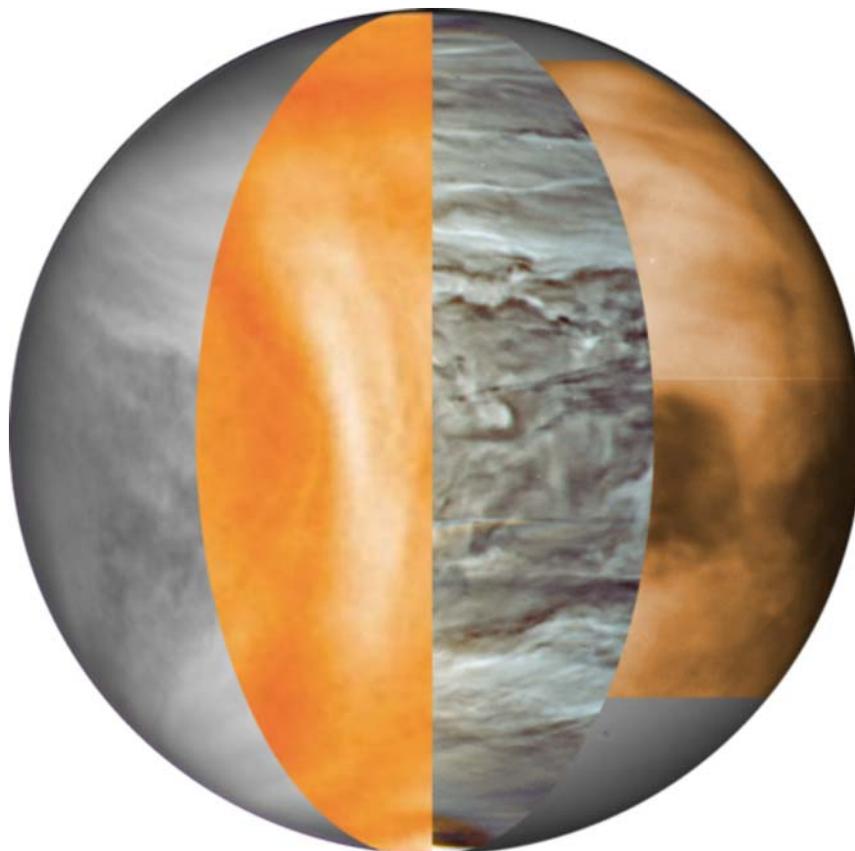
## International Venus Conference 2018 (Niseko, Hokkaido, Japan): Program Layout

		2018/9/10	2018/9/11	2018/9/12	2018/9/13	2018/9/14	2018/9/15
		Day 0	Day 1	Day 2	Day 3	Day 4	Day 5
8:00	AM1	SWT (Sapporo, starts at 9:30)	Arrivals to Niseko (transfer from Sapporo)	Atmospheric dynamics (1)	Aeronomy and plasma environment	Solid body (1)	All your own!
10:00				Coffee	Coffee	Coffee	
10:20	AM2			Atmospheric dynamics (2)	Poster (2)	Solid body (2)	
12:20							
	Lunch		Opening (13:00-)				
13:40	PM1	SWT (Sapporo)	Atmospheric structure, composition	Atmospheric dynamics (3)	Excursion, Splinter meetings	Solid body (3)	
15:40		Coffee	Coffee	Coffee		Coffee	
16:00	PM2	SWT (Sapporo)	Clouds and chemistry	Poster (1)		Future missions	
18:00							

# International Venus Conference 2018

## The 74th Fujihara Seminar : "Akatsuki" Novel Development of Venus Science

September 11-14, 2018 @ Niseko, Hokkaido, Japan



[Home](#) [Outline](#) [Important Dates](#) [Registration](#) [Program](#) [Participant Guide](#) [Sponsors](#) [Organizing committee](#) [Links](#)

Following the successful series of Venus conferences (La Thuile, Aussois, Sicily, and Oxford), the Akatsuki team and community in Japan are planning to host a Venus conference in 2018. The dates will be 11-14 September 2018 and the location will be a beautiful resort in Hokkaido (it will not be skiing season though). The conference is supported by the Fujihara Foundation of Science so it is entitled "The 74th Fujihara Seminar".

The conference is intended to cover all areas of Venus science with special focus on new results obtained from Japan's Venus Climate Orbiter "Akatsuki". Results from previous missions, from ground-based observations, numerical computations, and theoretical works are all welcome.

[\\* International Venus Conference 2018 Poster PDF](#)



[\\* International Venus Science Community \(host organization\)](#)

[\\* PLANET-C Project Team / Japan Aerospace Exploration Agency \(co-host organization\)](#)

[\\* Center for Planetary Science \(co-host organization\)](#)

2018年1月11日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 会長 御中

共催・協賛・後援承認申請書

申請団体名：SPARC GA 2018 組織委員会  
 申請者住所：〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1  
 東京大学大学院理学系研究科（地球惑星科学専攻）  
 申請者名：佐藤 薫

行事名（英訳名）	「成層圏・対流圏の諸過程と気候影響研究」に関する 2018 年総会 (The SPARC (Stratosphere-troposphere Processes And their Role in Climate) 2018 General Assembly) 略称：SPARC GA 2018 会議の種類：( <input type="checkbox"/> 国内会議 <input checked="" type="checkbox"/> 国際会議 )
主催者名	SPARC GA 2018組織委員会
開催日	2018年9月30日（日）～2018年10月5日（金）
開催場所、所在地	場所：京都市勧業館 みやこめっせ 所在地：〒606-8343 京都市左京区岡崎成勝寺町 9 番地の 1
申請の種類	<input type="checkbox"/> 共催（企画又は運営に参画し共同で開催する） <input checked="" type="checkbox"/> 協賛（趣旨に賛同し、必要に応じて金銭的・人的支援をする） <input type="checkbox"/> 後援（趣旨に賛同し、必要に応じて人的支援をする） <input type="checkbox"/> その他（ ）
金銭・人的援助の有無	無・ <input checked="" type="checkbox"/> 有（具体的に：1,000,000円）
行事趣旨	「成層圏・対流圏の諸過程と気候影響研究」(SPARC: Stratosphere-troposphere Processes And their Role in Climate) は、国際連合の専門機関の一つである世界気象機関(WMO)が推進しているWCRP(世界気候研究計画)のコアプロジェクトの一つであり、この総会はSPARCコミュニティが4年に1度開催する国際学術研究集会である。第1回目の1996年以来、当会議で第6回目をむかえ、これまでに地球温暖化やオゾンホールなどの気候問題の科学的理解、将来予測技術、観測技術に関する新しい研究成果がこの総会で活発に報告・論議されてきている。過去に北米、南米、欧州、豪州などで本総会が開催されてきたが、今回アジア地域ではじめて日本において開催されることになった。 本国際会議の経費の総額は下記の通り2170万円を見込んでいる。収入は、主に参加者から徴収する参加費である。主な支出は会議費(会場費、マイク・照明・コーヒープレーク費)、海外研究者旅費、印刷費、人件費(学生アル

	バイト)、懇親会費等である。本会議は国際学術組織 (SPARC) の全体集会であるが、同組織からの資金的サポートは保証されておらず、開催組織委員会の自助努力が期待されている。JpGUより100万円程度の支援をいただければ幸いである。
共催、協賛、後援等 団体名(申請中も含む)	日本気象学会 (協賛または後援: 申請予定) 日本学術会議 (後援: 申請予定)
希望する共催・協賛 ・後援の名称	<input type="checkbox"/> 公益社団法人日本地球惑星科学連合 その他 ( )
連絡先 (受理通知等送付先)	所在地: 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻 団体名: SPARC GA 2018組織委員会 担当者名: 佐藤 薫 TEL: 03-5841-4668 FAX: 03-5841-8791 (事務室) E-mail: kaoru@eps.s.u-tokyo.ac.jp
参加費等	( <input type="checkbox"/> 無料 <input checked="" type="checkbox"/> 有料 ) <u>参加予定人数 350人</u> Early bird: 50,000円程度 Regular online: 60,000円程度 On site: 70,000円程度
会議のホームページ	<a href="http://www-mete.kugi.kyoto-u.ac.jp/SPARC_GA2018/">http://www-mete.kugi.kyoto-u.ac.jp/SPARC_GA2018/</a>

\* 選択する項目については囲むか、チェックをお入れ下さい。

\* 会議・行事の趣旨のわかる、開催案内、プログラム、組織委員会名簿、会議全体の予算、開催案内、プログラム等を添付して申し込み下さい。

\* 原則として、経費や人的負担はいたしかねますが、必要あれば妥当性を判断しますので希望をお知らせください。

\* 公益社団法人地球惑星科学連合の名称のほか、同セッション名や委員会名での共催・協賛・後援ができますので、ご希望をお知らせ下さい。

\* 2013年12月19日理事会書式改正

開催案内： 1st circular を添付

プログラム：

時間割を添付

以下プログラムのテーマ

1. Connections of Atmospheric Composition and Chemistry to Weather and Climate
2. Climate Prediction from Weeks to Decades
3. Role of Atmospheric Dynamics for Climate Variability and Change
4. Atmospheric Impacts and Interactions Related to Tropical Processes
5. Advances in Observation and Reanalysis Datasets
6. SPARC Science for Society

組織委員会名簿：

SPARC2018 組織委員会：

共同委員長：佐藤薫(東大)、塩谷雅人、余田成男(京大)

会計：富川喜弘(極地研)

委員：秋吉英治(国環研)、江口菜穂(九大)、河谷芳雄、宮崎和幸、渡辺真吾(JAMSTEC)、  
黒田友二、小林ちあき(気象研)、菅原敏(宮教大)、田口正和(愛教大)、藤原正智、堀之内武(北大)

会議全体の予算： 21,700 千円

# SPARC General Assembly 2018

1 - 5 October 2018

Kyoto, Japan



[www.sparc-climate.org/GA2018](http://www.sparc-climate.org/GA2018)



International Council for Science



**SPARC**  
Stratosphere-troposphere  
Processes And their Role in Climate

The 6th General Assembly of SPARC: Stratosphere-Troposphere Processes And their Role in Climate, a core project of the World Climate Research Programme, will bring together a large community of scientists from around the world. General Assemblies are opportunities for SPARC to take stock of what has been achieved, where gaps in the portfolio of research undertaken by SPARC need to be filled, and to define where SPARC needs to be moving to remain responsive to the needs of both its members and the users of SPARC research products.

Founded in 1992, SPARC has coordinated high-level research activities related to understanding Earth system processes for over two decades. More specifically, SPARC promotes and facilitates cutting-edge international research activities on how chemical and physical processes in the atmosphere interact with climate and climate change. Research is largely bottom-up driven and contributes significantly to international assessments, such as the assessments of ozone depletion by the World Meteorological Organisation (WMO) and UN Environment (UNEP), as well as the climate assessments of the Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC). Find more information at [www.sparc-climate.org](http://www.sparc-climate.org).

#### SPARC research themes

- Atmospheric Dynamics & Predictability
- Chemistry & Climate
- Long-term Records for Climate Understanding

#### SPARC General Assembly 2018

Local Organising Committee:

- Kaoru Sato, University of Tokyo
- Shigeo Yoden, Kyoto University
- Masato Shiotani, Kyoto University

More info at  
[www.sparc-climate.org/  
GA2018](http://www.sparc-climate.org/GA2018)

The SPARC General Assembly 2018 will be held back-to-back with the 15th IGAC Science Conference, on 25-29 September 2018, in Takamatsu, Kagawa, Japan, [icacgp-igac2018.org](http://icacgp-igac2018.org).

### Save the dates

Early-bird registration closes: **30 June 2018**

Standard registration closes: **31 August 2018**

SPARC General Assembly, Miyako Messe, Kyoto, Japan: **1-5 October 2018**

	30 Sep. (Sunday)	1 Oct. (Monday)	2 Oct. (Tuesday)	3 Oct. (Wednesday)	4 Oct. (Thursday)	5 Oct. (Friday)
0900-		Opening				
0915-		Oral presentations	Oral presentations	Oral presentations	Oral presentations	Oral presentations
0930-						
0945-						
1000-		Poster summaries I	Coffee and posters I	Poster summaries II	Poster summaries II	Coffee and posters II
1015-		Coffee and posters I		Coffee and posters II	Coffee and posters II	
1030-						
1045-						
1100-						
1115-						
1130-						
1145-						
1200-		Lunch	Lunch		Lunch	Lunch
1215-						
1230-						
1245-						
1300-		Oral presentations	Oral presentations		Oral presentations	Oral presentations
1315-				afternoon off		
1330-				Posters are open		
1345-				side rooms available		
1400-	side rooms available					
1415-		Poster summaries I			Poster summaries I	
1430-						
1445-						
1500-		Coffee and posters I	Coffee and posters I		Coffee and posters II	Coffee and posters II
1515-						
1530-						
1545-						
1600-	Registration	Oral presentations	Oral presentations		Oral presentations	Oral presentations
1615-						
1630-		Poster summaries I				
1645-		Posters I	Posters I			Closing
1700-						
1715-						
1730-						
1745-						
1800-	Icebreaker		Change Posters			
1815-						
1830-						
1845-						
1900-				Conference Dinner		
1915-						
1930-						

# 慶弔規則

(趣旨)

**第1条** この規則は、公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下「本法人」という。）の役員及び事務局職員の慶弔に関し必要な事項を定めるものである。

(範囲及び方法)

**第2条** 本法人は、次の各号に掲げる者が死亡した場合、弔意電報を打ち（5,000円程度）、供花を行う（20,000円程度）。但し、第3号に掲げる者については、その旨の連絡を本人から受けた場合に限るものとする。

- (1) 本法人の役員（理事及び監事）
- (2) 本法人の事務局職員
- (3) 前2号の家族（親、子及び配偶者）

2. 本法人は、次の各号に掲げる者が死亡した場合、弔意電報を打つ（5,000円程度）。

- (1) 本法人のフェロー
- (2) 本法人のセクションプレジデント
- (3) その他、本法人に多大な貢献をし、理事会が必要と判断した者

附則

(1)この規則は、平成24年1月1日から施行する。

(2)平成30年1月23日第2条2項追加

2017年12月11日

男女共同参画学協会連絡会  
加盟学協会 各位

男女共同参画学協会連絡会  
第16期委員長 寺田 宏

### 男女共同参画学協会連絡会分担金の見直し等について

本連絡会は2002年に12団体で設立されてから15年が経過し、現在は正式加盟学協会53団体、オブザーバー加盟学協会45団体、合計98団体の組織として活動しております。

連絡会の主な活動は、男女共同参画学協会連絡会シンポジウムの開催、国に対してのさまざまな提言・要望を行うことで成果も出て来ています。この提言・要望は5年ごとに実施している大規模アンケート調査が基になっております。

この大規模アンケートは、今回で4回目となりましたが回を追うごとに充実してきたため、これまでのように各加盟学協会からの分担金とワーキングメンバーのご尽力だけでは、アンケートの実施・解析・報告書作成・印刷が難しくなっております。第四回大規模アンケート調査は、報告書まで終わりましたが、海外への発信のためアンケートの英訳(抄訳)実施には抄訳費用100万円が見込まれ、今期予算においては50万円が不足している状況から1年延期を予定しております。このため、次回アンケートのための積立も出来ません。

また、今回のアンケート解析では、業者にもかなり無理をして受けていただきました。今後も原則5年ごとに同程度のアンケートを実施すると、2020年度実施の第五回大規模アンケート終了時には約200万円の不足が見込まれ、その後も毎年赤字決算となり、2026年度実施の第六回大規模アンケート終了時には約400万円が不足する試算が出ています。

つきましては、次回以降の大規模アンケートを適切に実施し、これまで以上に充実した提言・要望にすること、さらに各ワーキンググループ活動の活性化のためにも分担金の改正を提案いたします。次回の運営委員会(2018年3月23日)において、分担金の改正とその実施時期について審議させていただきたく存じますので、ご検討くださいますようお願い申し上げます。

### 記

A案 分担金 一律2倍

B案 分担金 一律1.5倍

実施時期：①案 16期の分担金から分担金を改正する

②案 17期の分担金から分担金を改正する

連絡会運営費見込み

◎分担金 現状	15期	16期	17期	18期	19期	20期	21期	22期
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
<b>収入</b>								
分担金	740,000	755,000	755,000	755,000	755,000	755,000	755,000	755,000
アンケート報告集	190,000							
利息等雑収入	6	6	6	6	6	6	6	6
繰越金	1,031,297	82,249	319,655	-442,939	-205,533	-218,127	-2,980,721	-3,743,315
計	1,961,303	837,255	1,074,661	312,067	549,473	536,879	-2,225,715	-2,988,309
<b>支出</b>								
Web等管理	237,600	237,600	237,600	237,600	237,600	237,600	237,600	237,600
会議費	0	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000
WG活動費	15,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000
HP更新	50,000							
アンケート関連費								
実施Web作成費	183,600				250,000			
解析費	800,000					2,000,000		
報告書作成費	673,920					1,000,000		
英文抄訳			1,000,000				1,000,000	
雑費	38,132	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
計	1,998,252	517,600	1,517,600	517,600	767,600	3,517,600	1,517,600	517,600
シンポジウム損益	119,198							
<b>収支差額</b>	<b>82,249</b>	<b>319,655</b>	<b>-442,939</b>	<b>-205,533</b>	<b>-218,127</b>	<b>-2,980,721</b>	<b>-3,743,315</b>	<b>-3,505,909</b>

◎分担金 一律2倍	15期	16期	17期	18期	19期	20期	21期	22期
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
<b>収入</b>								
分担金	740,000	755,000	755,000	755,000	755,000	755,000	755,000	755,000
増額分								
アンケート報告集	190,000							
利息等雑収入	6	6	6	6	6	6	6	6
繰越金	1,031,297	82,249	319,655	312,061	1,304,467	2,046,873	39,279	31,685
計	1,961,303	837,255	1,829,661	1,822,067	2,814,473	3,556,879	1,549,285	1,541,691
<b>支出</b>								
Web等管理	237,600	237,600	237,600	237,600	237,600	237,600	237,600	237,600
会議費	0	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000
WG活動費	15,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000
HP更新	50,000							
アンケート関連費								
実施Web作成費	183,600				250,000			
解析費	800,000					2,000,000		
報告書作成費	673,920					1,000,000		
英文抄訳			1,000,000				1,000,000	
雑費	38,132	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
計	1,998,252	517,600	1,517,600	517,600	767,600	3,517,600	1,517,600	517,600
シンポジウム損益	119,198							
<b>収支差額</b>	<b>82,249</b>	<b>319,655</b>	<b>312,061</b>	<b>1,304,467</b>	<b>2,046,873</b>	<b>39,279</b>	<b>31,685</b>	<b>1,024,091</b>

異なる次元での信頼度を、研究者識別と研究情報管理に与えることが可能になります。

JpGU が ORCID 会員になられたことは、学会としての責任を明確にする点で大変重要なことと考えます。私達は、それに追随することになりますが、「学協会 ORCID コンソーシアム」設立を目指して昨年、12 学会の連名で科研費「国際情報発信強化」への応募申請をしました。ORCID 会員になることで、学会出版者としての立場を明確にし、急速に変貌する学術情報流通のあり方を学び、ジャーナル出版に役立てようと考えています。コンソーシアムでは、5 つの異なる ORCID 連携が可能になり、かつ会費が割安になります。なにより情報交換の場の創生も大きな動機です。科研費申請の準備として、各学会を通じた ORCID についてのアンケートを行いました。図にその結果の一例を示します。その他詳細についても同じ URL からご覧いただけます。

あなたはORCIDを持っていますか？（年代別）

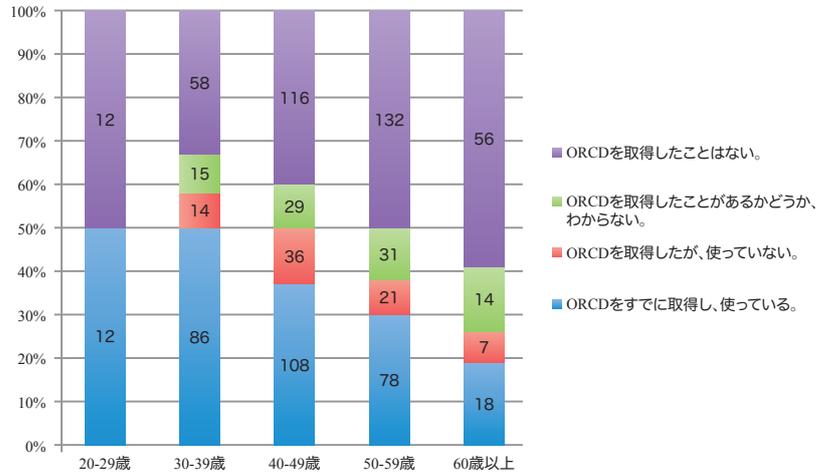


図 ORCID ID 保有に関するアンケート結果。(https://sites.google.com/view/orcid-j-society/ リソース)

## 高校生のための冬休み講座 開催報告

広報普及委員会 関根 康人 (東京大学)

年末も押し迫った2017年12月28日(木)、「高校生のための冬休み講座」を東京大学理学部にて実施した。今回はテーマを「地球の大変動」とし、「月を作ったジャイアントインパクト」について玄田英典先生(東京工業大学)に、「生物大量絶滅」について高橋聡先生(東京大学)に、それぞれお話しいただいた。来場者のおよそ3分の1は意欲ある中学生で占められており、質疑時間の後にも中・高校生が両先生を質問攻めに行っている姿が印象的であった。

さて講演であるが、はじめに玄田先生から「ジャイアントインパクト」というタイトルで、我々の月がいかにして作られたのかという話をいただいた。月の重要性やその起源、さらには最新の太陽系探査や地球以外で起きたジャイアントインパクトの可能性について、軽妙なトークでわかりやすく解説いただいた。とくに、スーパーコンピュータの中で「月が作られて」いく動画には、中高生たちも一様に驚きの表情を浮かべていた。次に高橋先生から「地層はタイムカプセル」というタイトルでお話しいただいた。地層や化石からどうやって昔の環境を復元するのか

という「タイムカプセルの開け方」の話から始まり、地球史上最大の生物大量絶滅であるペルム紀末大量絶滅の全容や、最新の研究成果までご講演いただいた。講演前後には、実際に化石に触れ合う機会もあり、中高生たちもさらに目を輝かせていた。

来場者の中には、地球や惑星の起源、生

命の進化に興味をもって勉強してきた高校生たちもいたようで、鋭い質問もたくさん飛び出し、また講座の満足度も極めて高かった。講演は、動画ライブラリとしてJpGUホームページからリンクしたYouTubeにアップされているので、ご興味のある皆様はぜひご視聴いただきたい。



図 会場の様子。

## 2018 年度公益社団法人日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）候補者募集

公益社団法人日本地球惑星科学連合は 2018 年度公益社団法人日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）の候補者を募集いたします。本賞の名称は三宅泰雄博士のご提案と寄付金で設立された公益信託地球化学研究基金が事業として実施してきた地球化学研究協会学術賞「三宅賞」に由来します。受賞者は自薦あるいは推薦者により推薦され、会長の諮問委員会である審査委員会において推挙された方で、理事会において承認された方とします。

### 1. 受賞者の条件

受賞者は、地球惑星科学に関わる物質科学の分野において新しい発想によって優れた研究成果を挙げ、国際的に高い評価を得ている個人

### 2. 受賞者数

1 名

### 3. 推薦

i. 選考対象は他薦または自薦による候補者とします。候補者は会員・非会員を問いません。他薦の場合、正会員のみが推薦者となることができます。選考対象は推薦によるものとし、自薦および正会員による他薦を認めます。ただし他薦の場合には本人に受賞の意思があることを事前に確認することが必要です。

ii. 推薦に必要な書類は以下の通りです。日本語か英語にて作成して下さい。両言語の混在は可とします。

- ・ 候補者の名前、連絡先（所属機関、住所、電話番号、メールアドレスなど）

- ・ 候補者の経歴、受賞歴

- ・ 全査読付き論文リストおよび主要な論文 5 編の別刷り

- ・ 推薦理由書（A 4 で 4 ページ以内）

自薦の場合は本人が、他薦の場合は推薦者が作成して下さい。

- ・ 自薦の場合は 2 通のサポートレター、他薦の場合は推薦者以外の 2 名のサポートレター

自薦の場合は本人以外の 2 名が作成して下さい。自薦の場合も他薦の場合もサポートレターを作成する 2 名については会員・非会員を問いません。

- ・ 他薦の場合は推薦者の氏名と連絡先（住所、電話番号、メールアドレスなど）

iii. 提出はワードファイル、およびその PDF 版を当該年度の推薦期間内に公益社団法人日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）事務局 ([miyake.jp@icloud.com](mailto:miyake.jp@icloud.com)) にメールにて送付して下さい。但し論文別刷り、およびサポートレターは PDF のみで結構です。

受領の確認メールが一週間以内に届かない場合は電話にてお問い合わせ下さい。受領の確認メールが届いていない場合、推薦が受付されない恐れがあります。

#### 4. 審査委員会

会長より委嘱された委員で構成します。委員の名簿は審査段階では非公開とし、受賞者決定後に公開する事といたします。

#### 5. スケジュール

2018年1月1日～2018年2月15日：推薦期間

2018年2月15日～3月理事会前日まで：審査期間

2018年3月理事会：審査委員長は結果を理事会へ報告、承認後すみやかに受賞者をホームページなどで発表します

2018年5月受賞者を2018年の連合大会で表彰いたします。

#### 6. 顕彰方法

表彰式にて賞状およびメダルを贈ります

賞の規則及び審査委員会規則は以下に掲示されています。

<http://www.jpogu.org/organization/files/miyakeshou.pdf>

[http://www.jpogu.org/organization/files/miyakeshou\\_shinsa.pdf](http://www.jpogu.org/organization/files/miyakeshou_shinsa.pdf)

★応募書類送付期限：2018年2月15日（木）

★応募書類送付先アドレス：顕彰担当理事 [miyake.jpogu@icloud.com](mailto:miyake.jpogu@icloud.com)

★賞に関するお問い合わせ：顕彰担当理事

電話番号 03-6914-2080（日本地球惑星科学連合事務局）

平成30年1月1日

公益社団法人日本地球惑星科学連合

顕彰制度担当理事

フェロー候補者数とフェロー数の変遷

	2014	2015	2016	2017	2018 (※2)	15人定員(※1)
宇宙惑星科学	9/9	3/5	3/3	3/6	4	3
大気水圏科学	7/10	1/1	1/1	2/3	1	2
固体地球科学	18/20	7/11	7/11	7/11	6	7
地球人間圏科学	5/7	2/2	1/1	2/3	2	2
地球生命科学	4/6	0/0	2/3	1/1	1	1
	43/52	13/18	14/20	15/24	14	15
	0.83	0.72	0.70	0.63		

※1 昨年(2017)は定員を15として、各セクションの人口比率で枠を決めた

※2 今年(2018)は15人枠に達していない

## 学生旅費助成制度

JpGU の活動の活性化ならびに若手研究者の育成を目的として、 連合大会において学生対象の顕彰制度を設けていますが、 本事業を一層進め、 受益の対象を拡大するために、 2016 年大会より学生への旅費の助成を行っております。

### 【支給額】

国内 5 万円まで（総額が 5 万円に満たない場合は、実費のみ支払）

国外 10 万円

### 【申請締切】

2 月 21 日

### 【結果の通知】

2 月 26 日中に応募者にお知らせします

### 【資格】

- ・ 応募時点で学生（高校生から大学院生まで）であること
- ・ 第一著者かつ発表者であること（ポスター可）

### 【選定基準】

- ・ 国籍、性別においてマイノリティグループに属していて、大会参加を奨励される学生を優先する。
- ・ 旅費の不足分及び旅費（交通費宿泊費）以外の経費を本人が負担できること。
- ・ アブストラクトが各関連セクションの基準に達していること。
- ・ エントリー申請要件（申請フォーム）に全て答えること。

旅費助成申請フォーム

※助成の確定を待っての投稿はできません。

※助成金は交通費及び宿泊費にのみ使用可能です（領収書が必要となります）。

投稿料、参加費及び滞在に必要なその他の経費についてはご自身で負担していただきます。

### 【問合せ先】

student\_travel\_support[at]jpgu.org

共催・協賛・後援等一覧

2018/1/22 12:39

申請日	承認日	種別	金銭的援助の有無	対象	会合名等	主催者	開催期間	会場
12月12日	12月19日	後援	無し	連合	科学教育研究協議会 第65回全国研究大会・群馬大会	科学教育研究協議会	2018年8月3日(金)～2018年8月5日(日)	場所：高崎中央公民館 所在地：群馬県高崎市末広町27 場所：高崎健康福祉大学高崎高等学校 所在地：群馬県高崎市中大類町531
1月5日	1月11日	協賛	無し	連合	“あかつき”が拓く新しい金星観(仮称)	スリーエム仙台市科学館、宇宙科学研究所“あかつき”プロジェクトチーム	2018年2月11日(日)～2018年2月28日(水)(予定)	場所：スリーエム仙台市科学館 所在地：〒981-0903 宮城県仙台市青葉区台原森林公園4番1号
1月5日	1月23日 理事会審議	協賛	有り(具体的に：海外からの参加者向けの旅費並みに宿泊費)	連合	国際金星会議2018 第74回藤原セミナー「あかつき」が拓く金星の科学	International Venus Science Community	2018年9月11日(火)～2018年9月14日(金)	場所：ヒルトンニセコビレッジ 所在地：〒048-1592 北海道虻田郡ニセコ町東山温泉
1月11日	1月17日	後援	無し	連合	第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018) 17th World Lake Conference(Lake Kasumigaura, Ibaraki, Japan, 2018)	茨城県・公益財団法人国際湖沼環境委員会(ILEC)	2018年10月15日(月)～2018年10月19日(金)	場所：つくば国際会議場 所在地：〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-20-3
1月12日	1月23日 理事会審議	協賛	有り(具体的に：1,000,000円)	連合	「成層圏・対流圏の諸過程と気候影響研究」に関する2018年総会 (The SPARC (Stratosphere-troposphere Processes And their Role in Climate) 2018 General Assembly) 略称：SPARC GA 2018	SPARC GA 2018組織委員会	2018年9月30日(日)～2018年10月5日(金)	場所：京都市勤業館 みやこめっせ 所在地：〒606-8343 京都市左京区岡崎成勝寺町9番地の1

## 公益社団法人日本地球惑星科学連合

### 平成 28 年度第 6 回理事会(平成 29 年 1 月 17 日開催) 議事録 抜粋

第 6 号議案 東北大学災害科学国際研究所の共同利用・共同拠点化に向けたサポートレターの発行依頼について

古村孝志理事より、東北大学災害科学国際研究所の共同利用・共同拠点化に向けたサポートレターの提出依頼について説明があった。

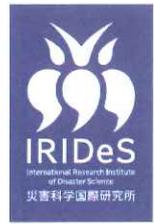
この件については、東北大学災害科学国際研究所が現在行なっている取り組みは日本ではじめてのことであるので、サポートレターの発行をサポートする意味で、春山成子地球人間圏科学セクションプレジデントより以下の紹介があった。

「第 3 回国連防災世界会議で仙台防災枠組が策定され、災害による死亡者数、被災者数、直接的な経済損失、重要なインフラへの被害を削減するなどを含む7つのグローバルターゲットの達成に向けた取り組み合意されたが、目標の進捗状況をモニタリングし評価するために各国が基本となる災害被害統計を整備する必要がある。災害被害統計が整備された国は先進国も含めて少ないのが現状であり、東北大学災害科学国際研究所は UNDP との連携を中心に災害被害統計整備に向けた支援を目的に「災害統計グローバルセンター」を 2015 年 4 月に設置した。」

<http://liaison.lab.irides.tohoku.ac.jp/international-liaison/gcds/gcds-2>

大谷栄治固体地球科学セクションプレジデントから「同研究所は、防災科学の中心になっている機関であり、東北大学のリーディング大学院(安全・安心)プログラムにおいても研究よび人材育成に中心的役割を担っています。したがって、連合としての支援は適切であると思っています」とのコメントを得た。

審議の結果、サポートレターの発行が承認された。



日本地球惑星科学連合

会長 川幡 穂高 殿

東北大学災害科学国際研究所の共同利用・共同研究拠点化申請結果  
及び指定国立大学法人世界トップレベル研究拠点の指定についてのご報告

拝啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また常日頃より本研究所の研究・教育の遂行に関し、ご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

文部科学省より、共同利用・共同研究拠点化に対する本研究所からの申請の審査結果の通知がありましたのでご報告をさせていただきます。結果は、数多くの申請があった中でも本研究所の取り組みが評価され、最終選考まで残りましたが、残念ながら不採択の結果となりました。

本研究所の共同利用・共同研究拠点化に向けた取り組みに対して、要望書をいただくなど、ご協力とご賛同をいただいたにも関わらず、このような結果になったことは誠に残念であり、当方の力不足と反省をしております。結果として、平成30年度共同利用・共同研究拠点化の新規認定はゼロということになり、本邦における共同利用・共同研究拠点の新規認定が容易でない現状も改めて認識しました。今回の結果を当方の力不足と受け止めてその反省に立って今後の取り組みを見直したいと考えております。その中でも、共同利用・共同研究拠点化の目的に掲げました「実践的防災学に基づく総合減災システムの構築と展開」は審査の中で高く評価されましたので、拠点化の認定の有無に関わらず、社会課題として重要と考え、今後も目標達成に向けて推進していく所存であります。拠点化申請は、第三期中期目標・中期計画の期間中には再申請はできませんので、第四期中期目標・中期計画中の再申請に向けて基盤整備と共同研究を推進していきたいと考えております。

共同利用・共同研究拠点化は、残念ながら不採択の結果となりましたが、同時期に東北大学が申請しておりました第三期中期目標・中期計画の期間における指定国立大学法人においては、東京大学と京都大学とともに指定されました。本学では、特に強みを有する4領域（①材料科学、②スピントロニクス、③未来型医療、④災害科学）について、全学の卓越したリソースを高等研究機構に結集し、世界トップレベル研究拠点を形成することとなりました。本研究所では、4つの学術分野（人間・社会科学系、実践科学系、自然科学系、災害医学系）を融合させた新たな学際研究領域として、「④災害科学」を世界に先駆けて開拓していく所存ではあります。

今後も、諸学会や他大学、他研究所のご協力、ご支援が必要不可欠であります。改めて、本学及び本研究所へのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

指定国立大学法人特設HP：<https://www.tohoku.ac.jp/dnu/index.html>

末筆ではございますが、貴会ならびに貴研究分野の益々のご発展を祈念しております。

敬具

平成29年12月22日

東北大学災害科学国際研究所長  
今村 文彦



# 公益社団法人日本地球惑星科学連合

平成 29 年度 第 4 回理事会(平成 29 年 11 月 28 日開催)議事録抜粋

第 3 号議案 リソスフェア・マントルのダイナミクスに関する第 2 回アジア・太平洋域ワークショップ共催申請承認の件

リソスフェア・マントルのダイナミクスに関する第 2 回アジア・太平洋域ワークショップを連合として共催することを審議した。LOC 委員を務める中川貴司氏によりワークショップについて説明があった。

審議の結果共催することを承認した。ただし、共催申請についてはより慎重に対応した方が良いとの意見もあり、固体地球科学セクションとグローバル戦略委員会から次回理事会に 2018 年度の活動方針の中での本件の位置づけについて詳細を提出することとした。

本ワークショップへの固体地球科学セクションよりの拠出金については、同セクションから 2018 年度予算要求するが、最終的には予算委員会での同セクションへの予算配分額に基づき、セクションで決定される運びとなる。

平成 28 年 11 月 28 日

「リソスフェア・マンツルのダイナミクスに関する第 2 回アジア・太平洋域ワークショップ」の共催について

日本地球惑星科学連合 会長殿

10 月 20 日付で共催の申請が出されております標記ワークショップについて、固体地球科学セクションボードでは 10 月 23 日にメールによる審議を行いました。その結果、JpGU と固体地球科学セクションの国際活動を一層活発化し、JpGU の国際的な認知度を改善するというセクションの方針に合致し、アジアにおける JpGU 固体地球科学セクションの国際活動を強化ができることから、標記ワークショップと日本地球惑星科学連合との共催をお願いしたいと思えます。共催に伴い固体地球科学セクションでは、執行部の 3 名（大谷・田中・道林）が同ワークショップに LOC の一員として参加し、その旨をワークショップのホームページでも周知しています。また、このセクションボードからは、招聘研究者の選定、当日のセッションの進行に積極的に参加することを LOC の委員長によってご了承いただいております。なお、必要経費につきましては、固体地球科学セクションの予算で措置する所存です。このように本シンポジウムは、JpGU 固体地球科学セクションの方針に合致することから、その成功のために JpGU のホームページ等での広報と宣伝についてもご配慮をお願いいたします。

以上のシンポジウムの準備状況に鑑み、ご提案いたします標記共催申請の審議に際し、連合理事会において格別のご配慮を賜われますよう、お願い申し上げます。

日本地球惑星科学連合  
固体地球科学セクション プレジデント 大谷栄治

平成 28 年 11 月 28 日

「リソスフェア・マンツルのダイナミクスに関する第 2 回アジア・太平洋域ワークショップ」の共催について

日本地球惑星科学連合 会長殿

10 月 20 日付で共催の申請が出されております標記ワークショップについて、グローバル戦略委員会では 11 月 13 日に開催した委員会で審議を行いました。

JpGU と JpGU の固体地球科学セクションが、今後継続的に開催される当該ワークショップを共催し、さらに継続的な支援をすることは、アジア・太平洋諸国の研究者と共同で、この地域に地球ダイナミクスならびに地球深部科学のコミュニティを構築し、その発展に大きく貢献すると考えられます。さらに、アジア・太平洋諸国の研究者コミュニティの構築はこの分野の国際的なコミュニティのさらなる発展に大きな寄与をもたらします。このことは、グローバル戦略委員会において議論されている JpGU の長期的な国際戦略の一翼をなすものであると考えられます。

以上のように、このワークショップを支援することはアジアにおける国際活動を強化するというグローバル戦略委員会の活動方針に合致していることから、標記ワークショップと日本地球惑星科学連合との共催の提案を支持することと致しました。また、当委員会のメンバー（中川・大谷）が標記ワークショップの LOC の委員として参画することになり、すでにワークショップのホームページにおいて、周知されております。また、これらのメンバーとともに固体地球科学セクションからも LOC の委員に加わり、研究者招聘やシンポジウムの進行を担当するなど、固体地球科学セクションも積極的に活動を支援しています。なお、このワークショップの研究者のネットワークを当委員会としても重視し、今後も継続的に支援してゆきたいと考えております。

以上のことから、連合理事会における標記共催申請の審議に際し、格別のご配慮を賜われますよう、お願い申し上げます。

日本地球惑星科学連合

グローバル戦略委員会 委員長 木村 学

2017年度選挙スケジュール

	月日	曜	進行
	7/21	(金)	理事会(選挙委員会立ち上げ)
代議員選挙	7/31	(月)	定数確定
	8/1	(火)	選挙公示
	8/10~9/11		候補者受付期間
	9/13~9/20		第1回選挙管理委員会 : 候補者確定
	9/22	(金)	候補者リスト公開
	10/2~11/1		投票期間
	11/2	(木)	第2回選挙管理委員会 : 開票、当選者確定
	11/6	(月)	開票結果公開
セクション プレジデント 選挙	11/6	(月)	選挙公示
	11/7~16		候補者受付期間
	11/16	(木)	第3回選挙管理委員会(メール審議
	11/20	(月)	当選者確定(各セクション1名ずつのため選挙無し)
理事候補者 選挙	12/13	(水)	選挙公示
	12/21~2018/1/11		候補者受付期間
	1/15	(火)	第4回選挙管理委員会 : 候補者確定
	1/31~2/15		理事候補者選挙投票期間
	2/23	(金)	第5回選挙管理委員会 : 開票
	3/26	(月)	役員候補者推薦委員会 : 候補者リスト確定

候補者氏名	所属	登録区分	抱負 (推薦の場合は推薦文)
浜野 洋三	無し	固体地球科学	JpGU の事業はここ数年で大幅に拡大し、連合大会の参加者も急激に増加してきました。しかし、大会運営を中心とした事業を支える事務局体制の整備が遅れています。今期は、運営のための基盤体制を整備し、多くの大会参加者が満足できる、着実な安定した JpGU の実現のために働きたいと思います。
中村 正人	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所	宇宙惑星科学	これまでの連合における経験を活かし、日本から生まれた国際組織としての地球惑星科学連合の発展に理事として尽くします。
木村 学	東京海洋大学	固体地球科学	来たる 2 年間は、2020 に予定されている JpGU-AGU の第 2 回共同大会へ向けて改めてのホップ・ステップを計る時期です。これまでの経験を生かして微力ながら JpGU の発展に力を尽くしたいと思います。
村山 泰啓	情報通信研究機構	大気水圏科学	連合での情報担当理事、グローバル戦略委員会の経験を生かし、現在の学術会議連携会員、ICSU-WDS 国際委員など他の組織の役割も生かしながら、学術コミュニティの成長、発展に貢献できればと思います。
西 弘嗣	東北大学学術資源研究公開センター	地球生命科学	これまで総務、教育の関連で連合の運営に関与してきました。今後もその運営において多くの困難な点が克服できるように地球惑星連合の発展のため全力を尽くしたいと思います。
市川 洋	無し	地球惑星科学総合	JpGU からの委員の一人として 2015 年 12 月以降現在まで、理数系学会教育問題連絡会でも活躍中です。物化生等との科学教育の連携を進めるためにも JpGU 理事として活躍して頂きたい、ここに推薦します。 推薦者 1: 瀧上 豊 推薦者 2: 畠山 正恒 推薦者 3: 宮嶋 敏
川幡 穂高	東京大学大気海洋研究所	地球生命科学	世界の一極を担える電子ジャーナル PEPS の確立、AGU との共同開催も含めた年会の充実により、日本の地球惑星科学の世界への情報発信を促進し、この分野の新しいパラダイムに到達すべく努力したいと思います。

佐藤 正樹	東京大学大気海洋研究所	大気水圏科学	私は PEPS 創刊以来の大気水圏科学セクションの編集委員長を勤め、JpGU において大気科学の国際セッションを毎年企画してきました。JpGU において、数値モデリングと観測との連携研究の推進、JpGU の国際化、若手の育成に貢献します。
道林 克禎	静岡大学	固体地球科学	JpGU が日本の地球惑星科学分野を発展させる場として今まで以上に認知され、JpGU 大会が研究・教育・産業の交流の場となるように広報や普及活動等に尽力していきます。
吉田 尚弘	東京工業大学	大気水圏科学	国連環境計画 GEO6 委員、学振国際事業部委員、ACP/EGU と GRL/AGU の元 Editor、中国、欧州・米国を代表する 3 つの学会と地球化学会会長時に MOU 締結した経験などを生かして、本連合の若手育成、国際化、科学の発展に貢献したい。
古村 孝志	東京大学地震研究所	固体地球科学	理事会活動を通して日本地球惑星科学連合の組織を一層強化し、国内関連学協会及び国際コミュニティとの連携の下、地球惑星科学の発展に貢献したい。
河宮 未知生	海洋研究開発機構	大気水圏科学	地球規模気候変化予測モデルの開発、応用を専門にしています。地球環境問題における地球惑星科学の貢献を社会に発信することを通じ、基礎・応用科学としての分野の発展と JpGU の国際化に尽力したいと考えています。
田近 英一	東京大学	宇宙惑星科学	21 世紀における地球惑星科学分野の発展の方向性を見据え、学術的活動はもちろんのこと、次世代を担う人材の教育と育成、広報普及活動による社会的な理解と支持の向上、そして JpGU の組織強化など、微力ながら尽力いたします。
阿部 なつ江	海洋研究開発機構	固体地球科学	JpGU の更なる発展のためには、女性や若手理事を含めた多様な意見を束ねた執行部運営がとても大切である。阿部なつ江代議員は、ダイバーシティ推進委員会のメンバーとして日本地球惑星科学連合に貢献してきた実績から理事に推薦するものである。推薦者 1：原田 尚美 推薦者 2：小俣 珠乃
中村 昭子	神戸大学	宇宙惑星科学	地球惑星科学分野の研究活動の拡がりや深化、それを担う次世代の活動の基盤の整備や維持のために微力ながら貢献できればと考えます。

近藤 昭彦	千葉大学環境リモートセンシング研究センター	地球人間圏科学	日本の抱える人口減少、高齢化社会、災害といった課題を克服し、持続可能な社会を形成するために、包括的な視点から環境を捉える地球人間圏科学を発展させたいと思います。
掛川 武	東北大学大学院理学研究科	地球生命科学	財務委員や地球生命セクションボード代議委員の経験を生かして、地球惑星科学連合の将来像を見据えた戦略的運営に貢献していきたいと思います。現状維持にとどまるのではなく常時成長が優先課題だと思っています。
日比谷 紀之	東京大学大学院理学系研究科	大気水圏科学	日本地球惑星科学連合の理事を務め、2016年連合大会委員長としてAGU Joint Session導入による国際化推進、大気水圏科学セクション参加者の飛躍的増加によるJpGU活性化に貢献した日比谷氏を理事に推薦します。推薦者1: 蒲生 俊敬 推薦者2: 伊藤 進一
井出 哲	東京大学大学院理学系研究科	固体地球科学	JpGUの健全な運営に貢献したいと思います
小口 高	東京大学	地球人間圏科学	地形学と地理情報科学の研究者として、連合では理事、代議員、GISセッションの開催、連合大会のスペシャルレクチャーなどを担当して参りました。引き続き連合に貢献したいと希望しております。
ウォリス サイモン	東京大学	固体地球科学	私はJpGU・AGU・日本地質学会などの国際化推進を担当する委員会のメンバーと務めるなど学会の国際交流に関する経験があり、その経験を生かしてJpGUの国際化に貢献したい。
小口 千明	埼玉大学	地球人間圏科学	地球科学分野の研究者育成および支援に関する問題、とくに任期付雇用、キャリア形成、介護、ワークライフバランス等について、国際的・分野横断的な組織などとも連携し、改善策を考えていきたいと思っています。
成瀬 元	京都大学	固体地球科学	連合の顕彰制度の確立と発展に貢献したいと考えています。専門分野の堆積学は固体地球と地球人間圏セクションの境界領域ですし、世代的にも若手とベテランの間ですので、複数の意味で境界領域の橋渡しの存在となれるよう努力したいと思います。

松本 淳	首都大学東京	地球人間圏科学	現代の地球や地域の環境問題の解決のためには、人間圏を含めた地球の理解を進展させる必要があります。過去の理事や PEPS セクション編集委員長等での経験を踏まえ、連合のさらなる国際的発展に微力を尽くします。
加藤 雄人	東北大学	宇宙惑星科学	宇宙プラズマシミュレーションの分野で顕著な功績がある。今期は宇宙惑星セクションの幹事補佐として JpGU 関連の運営にも貢献しており、中堅若手の代表としてリーダーシップを発揮することが期待できる。 推薦者 1：高橋 幸弘 推薦者 2：佐々木 晶
倉本 圭	北海道大学	宇宙惑星科学	研究教育ネットワークの形成を通じた地球惑星科学の展開に貢献したいと思います。
鈴木 勝彦	海洋研究開発機構	固体地球科学	所属学会、機関において国際的な共同関係の構築、および広報について活動してきた経験を活かし、JpGU のこれらの機能の強化を行うと共に、若い人が積極的に関わられるようなワクワクできて風通しのいい JpGU の運営を目指します。

## 平成 29 年度第 4 回選挙管理委員会議事録

公益社団法人日本地球惑星科学連合

1. 開催日時 平成 30 年 1 月 15 日（月）午後 13 時 30 分から午後 14 時 30 分
2. 開催場所 連合事務局（東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階）
3. 出席委員 癸生川 陽子（委員長）  
飯塚 毅  
一瀬 建日  
鈴木 毅彦  
中田 裕之

オブザーバー 総務委員長 古村 孝志

（敬称略）

### 4. 議事

定刻を迎えたため癸生川委員長が議長として開始を宣言した。

#### (1) 理事候補者選挙候補者確定

理事候補者選挙の候補者を確認した。

所属の表記について、部署の記載の有無等、表記を統一することも検討したが、今回は基本的に本人の申請通りとした。ただし「元～」の表記のある候補については公平性の観点からこれを削除し、他全体的に表記を最低限整えることとした。以上の表記を是正することで、一覧に問題ないことを確認した。

なお次回の選挙では「所属の表記は大学・機関名などのみとする」などの注意書きをあらかじめ提示することで、候補者一覧も統一するほうがよいとの意見があった。

#### (2) 投票手順確認

投票用紙の郵送方法、返送方法など、投票手順の確認と検討をした。

候補者一覧は今回日本語版のみを同封すること、投票用紙の候補者氏名は日英併記することとした。また、投票は 15 名まで可能であり、15 名を超えた場合には投票が無効になることを投票用紙と投票説明書にわかりやすく記載することとした。

#### (3) その他

選挙関連規則や公示について検証した。理事候補者選挙の候補者の所信は規則では 100 字程度となっているが、これは代議員選挙同様 100 字以下が望ましいとの意見があった。これは後日理事会に意見として提出するよう総務委員会に依頼した。

また、現状では「平成 29 年度理事候補者選挙」としているが、次回から年度表記については再検討したほうがよいとの意見があった。

次回から立候補・推薦・推薦承諾の各申請書はメールでなく入力フォームを利用することを検討するとした。

議長は以上をもって議事が終了したことを告げ、閉会を宣言した。

## H30/1/23 理事会資料(ジャーナル関連)

### 1. PEPS 論文投稿・出版状況(2017/12/31 現在)(資料 J\_1)

#### ・論文投稿数(Total:317)

～2014 年: 71 (Editorial-3, Correction-1, Review-21, Research-45, Methodology-1)

2015 年: 75 (Review-21, Research-50, Methodology-3, Editorial-1)

2016 年: 61 (Review-6, Research-50, Methodology/Preface/Datapaper-4, correction -1)

2017 年: 110 (Review-11, Research-92, Methodology/Preface/Datapaper-6, correction -1)

#### ・出版論文数(Total:155 Review 論文 26.4%)

～2014 年: 29 (editorial-3, Correction-1, Review-7, Research -18)

2015 年: 46 (Review-15, Research-31)

2016 年: 38 (Review-10, Research-22, Methodology-1, Preface-3, Editorial-1, correction-1)

2017 年: 42 (Review-7, Research-33, Methodology-1, correction-1)

\*なお、2018 年は 1 月 18 日時点で 4 論文出版

#### ・査読中 : 54 (Review-7, Research-46, Methodology/Datapaper-1)

#### ・英文校閲・出版校正中: 11 (Review-1, Research-9, Methodology/Preface/Datapaper-1)

#### ・reject/withdrawn 済: 97 (31.3%)

### 2. PEPS 論文被引用状況(資料 J\_2)

2018/1/17 現在 2.221 だが、WOS に 2017 年の全データがまだ反映されていないため、Google Scholar 調査値(2.545)に近い数値が最初の IF として期待できる。

### 3. H29 年度第 5 回編集長会議報告 (2018/1/19) :

投稿・出版状況、SPEPS の進行状況などの報告があり、投稿状況の悪い SPEPS への対応、SPEPS 内において論文の分野が混在した際の対応、相互に引用しやすくするための情報提供方法などについて議論し、査読者の承諾回答期限の見直し等を検討した。また、地震学会論文賞に PEPS から出版された 3 論文を推薦する事を承認した。

資料J\_2.Progress in Earth and Planetary Science 出版・投稿状況

	2014				2015				2016				2017				Total							
	Review		Research		Methodology /Debate		Total		Review		Research		Methodology /Data		Total		Review		Research		Methodology/ Data		Total	
	Review	Research	Methodology	Total	Review	Research	Methodology /Debate	Total	Review	Research	Methodology /Data	Total	Review	Research	Methodology/ Data	Total	Review	Research	Methodology/ Data	Total	Review	Research	Methodology/ Data	Total
1. Space and planetary sciences.	2	1	0	3	6	5	0	11	2	1	0	3	2	3	0	5	12	10	0	22	8.1%	6.8%	0.0%	14.9%
2. Atmospheric and hydroserpheric	2	5	0	7	2	3	0	5	5.6%	2.8%	0.0%	8.3%	4.9%	7.3%	0.0%	12.2%	8.1%	6.8%	0.0%	14.9%	7	20	0	27
3. Human geosciences	0	2	0	2	4.3%	6.5%	0.0%	10.9%	5.6%	8.3%	0.0%	13.9%	2.4%	22.0%	0.0%	24.4%	4.7%	13.5%	0.0%	18.2%	0	7	0	12
4. Solid earth sciences	2	9	0	11	0.0%	4.3%	0.0%	4.3%	0.0%	2.8%	0.0%	2.8%	0.0%	17.1%	0.0%	17.1%	0.0%	8.1%	0.0%	8.1%	11	47	3	61
5. Biogeosciences	1	0	0	1	4	16	0	20	3	13	3	19	2	9	0	11	7.4%	31.8%	2.0%	41.2%	2	10	0	12
6. Interdisciplinary research	0	1	0	1	2.2%	6.5%	0.0%	8.7%	0.0%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	9.8%	0.0%	9.8%	1.4%	6.8%	0.0%	8.1%	2	7	5	14
<b>Subtotal</b>	<b>7</b>	<b>16</b>	<b>0</b>	<b>25</b>	<b>4.3%</b>	<b>4.3%</b>	<b>0.0%</b>	<b>8.7%</b>	<b>8.3%</b>	<b>2.8%</b>	<b>2.8%</b>	<b>13.9%</b>	<b>4.9%</b>	<b>2.4%</b>	<b>2.4%</b>	<b>9.8%</b>	<b>4.7%</b>	<b>3.4%</b>	<b>1.4%</b>	<b>9.5%</b>	<b>39</b>	<b>104</b>	<b>5</b>	<b>148</b>
Editorial/Correction	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4
<b>Total</b>	<b>28.0%</b>	<b>72.0%</b>	<b>0.0%</b>	<b>100%</b>	<b>32.8%</b>	<b>67.4%</b>	<b>0.0%</b>	<b>100%</b>	<b>27.8%</b>	<b>61.1%</b>	<b>11.1%</b>	<b>100%</b>	<b>17.1%</b>	<b>80.5%</b>	<b>2.4%</b>	<b>100%</b>	<b>26.4%</b>	<b>70.3%</b>	<b>3.4%</b>	<b>100%</b>	<b>26.4%</b>	<b>70.3%</b>	<b>3.4%</b>	<b>100%</b>

(2017/12/31)

	~2014				2015				2016				2017				Total							
	Review		Research		Methodology /Debate		Total		Review		Research		Methodology /Data		Total		Review		Research		Methodology/ Data		Total	
	Review	Research	Methodology	Total	Review	Research	Methodology /Debate	Total	Review	Research	Methodology /Data	Total	Review	Research	Methodology/ Data	Total	Review	Research	Methodology/ Data	Total	Review	Research	Methodology/ Data	Total
1. Space and planetary sciences.	8	9	0	17	3	8	1	12	1	5	0	6	7	19	0	26	6.1%	13.2%	0.3%	19.7%	19	41	1	61
2. Atmospheric and hydroserpheric	5	7	0	12	4.1%	10.8%	1.4%	16.2%	1.7%	8.3%	0.0%	10.0%	6.4%	17.4%	0.0%	23.9%	6.1%	13.2%	0.3%	19.7%	10	54	1	65
3. Human geosciences	1	4	0	5	4.1%	10.8%	0.0%	14.9%	1.7%	15.0%	0.0%	16.7%	0.9%	27.5%	0.9%	29.4%	3.2%	17.4%	0.3%	21.0%	1	22	0	23
4. Solid earth sciences	3	17	1	21	0.0%	5.4%	0.0%	5.4%	0.0%	11.7%	0.0%	11.7%	0.0%	6.4%	0.0%	6.4%	0.3%	7.1%	0.0%	7.4%	17	79	7	103
5. Biogeosciences	2	3	0	5	13.5%	31.1%	2.7%	47.3%	5.0%	33.3%	3.3%	41.7%	0.9%	17.4%	1.8%	20.2%	5.5%	25.5%	2.3%	33.2%	2	18	1	21
6. Interdisciplinary research	2	5	0	7	0.0%	4.1%	0.0%	4.1%	0.0%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	6.4%	0.9%	7.3%	0.6%	5.8%	0.3%	6.8%	10	23	4	37
<b>Subtotal</b>	<b>21</b>	<b>45</b>	<b>1</b>	<b>67</b>	<b>6.8%</b>	<b>5.4%</b>	<b>0.0%</b>	<b>12.2%</b>	<b>1.7%</b>	<b>6.7%</b>	<b>3.3%</b>	<b>11.7%</b>	<b>1.8%</b>	<b>9.2%</b>	<b>1.8%</b>	<b>12.8%</b>	<b>3.2%</b>	<b>7.4%</b>	<b>1.3%</b>	<b>11.9%</b>	<b>59</b>	<b>237</b>	<b>14</b>	<b>310</b>
Editorial/Correction	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4
<b>Total</b>	<b>31.3%</b>	<b>67.2%</b>	<b>1.5%</b>	<b>100%</b>	<b>28.4%</b>	<b>67.6%</b>	<b>4.1%</b>	<b>100%</b>	<b>10.0%</b>	<b>83.3%</b>	<b>6.7%</b>	<b>100%</b>	<b>10.1%</b>	<b>84.4%</b>	<b>5.5%</b>	<b>100%</b>	<b>19.0%</b>	<b>76.5%</b>	<b>4.5%</b>	<b>100%</b>	<b>19.0%</b>	<b>76.5%</b>	<b>4.5%</b>	<b>100%</b>

(2017/12/31)

注: 2016年と2017年の総投稿数には、投稿システム内で投稿番号が付与されないErratum原稿各1件も含むため、実際の投稿受付番号よりも1件多い。

	~2014				2015				2016				2017				Total			
	Review	Research	Methodology /Data paper /Release	Subtotal	Editorial + Correction	Total	Review	Research	Methodology /Debate	Subtotal	Editorial + Correction	Total	Review	Research	Methodology /Data	Subtotal	Editorial + Correction	Total		
Published	39	104	5	148	7	155	12.6%	33.5%	1.6%	47.7%	-	-	12.6%	33.5%	1.6%	47.7%	-	-		
Accepted including Provisionally-accepted	1	9	1	11	0	11	0.3%	2.9%	0.3%	3.5%	0	0	0.3%	2.9%	0.3%	3.5%	0	0		
Under review	7	46	1	54	0	54	2.3%	14.8%	0.3%	17.4%	-	-	2.3%	14.8%	0.3%	17.4%	-	-		
Rejected/Withdrawn	12	78	7	97	0	97	3.9%	25.2%	2.3%	31.3%	-	-	3.9%	25.2%	2.3%	31.3%	-	-		
<b>Total</b>	<b>59</b>	<b>237</b>	<b>14</b>	<b>310</b>	<b>7</b>	<b>317</b>	<b>19.0%</b>	<b>76.5%</b>	<b>4.5%</b>	<b>100.0%</b>	<b>7</b>	<b>317</b>	<b>19.0%</b>	<b>76.5%</b>	<b>4.5%</b>	<b>100.0%</b>	<b>7</b>	<b>317</b>		

(2017/12/31)

## Google ScholarおよびWoS Core Collection調査に基づく、PEPS論文被引用状況

	論文数	2017/1/1～2017/12/31の被引用回数				WoS Core Collection 調査
		Google Scholar調査			合計	
		ジャーナルから (うちWoS採録誌から)	書籍、学会発表、 学位論文等から			
2015/1/1～2015/12/31に出版された論文 (Editorial/Preface 2編を含む)	46	139 (123)	14	153	114	
2016/1/1～2016/12/31に出版された論文 (Erratum/Preface 5編を含む)	38	81 (73)	5	86	57	
合計 (Editorial/Erratum/Preface 7編を含む)	84	220 (196)	19	239	171	
2017/12/31の被引用率		2.857	2.545	0.247	3.104	2.221

(2018/01/18現在)

(2018/01/17現在)

\*被引用率: 2015年および2016年に出版された論文が2017年に引用された回数を、2015年と2016年に出版された論文合計数で割った値

## 2018 年大会 大会概要

タイトル	日本地球惑星科学連合 2018 大会 Japan Geoscience Union Meeting 2018 (JpGU 2018)
日時	2018 年 5 月 20 日(日)～24 日(木) 5 日間
会場	幕張メッセ 国際会議場(全館), 国際展示場 (Hall7) 東京ベイ幕張ホール(全館 ※日曜のみ 9 スパン目まで)
大会委員長	齋藤文紀(学協会長会議議長・日本第四紀学会会長)

### 大会準備予定

仮コマ数発表	10/25	プログラム委員会より, 採択会議で決定した仮配分のコマ数をお知らせします ※会議で決まった仮コマ数の変更は投稿終了後まで行いません
セッション情報再入力	10/25-10/28	コンビーナが, 開催不可日や, 採択された開催セッションの中に連続開催希望・同時開催回避希望がある場合に, 情報を登録します
セクション帯案作成	10/30-11/12	セクションプログラム委員が, セクション毎にセッションの並びを検討します 複合領域セッションは, 提案時に指定した母体セッションが担当します
編成会議	11/14-11/15	プログラム委員会にて, 各セクションで作成した帯案(セクションの並び)を集め, コマ割を作成し, 全体の重複状況などを確認・調整します
コマ割公開 (コンビーナのみ)	11/21	プログラム委員会より, 編成会議で作成したコマ割をコンビーナ宛に公開します ※原則的に会議で決まったコマ割は変更いたしません
コマ割一般公開	12/1	一般向けにウェブ上でセッションリストとコマ割を公開します
投稿	1/10-2/19	コンビーナには積極的な投稿呼びかけをお願いします 投稿期間中は, 投稿者の氏名・タイトルのみ確認できます ※早期 2/5 23:59
採択・移動	2/22-2/27	コンビーナが, 論文の, 採択/不採択, 口頭/ポスター(予定, 後から変更可), 招待講演の選出, 他セッションへの移動を行います
コマ数確定	2/28	プログラム委員会にて, 採択・移動の結果に基づき, 投稿数を再計算し, コマ数を確定します 不採択→投稿元セッションにカウント, 移動→移動先セッションにカウント
セッション編成	3/1-3/7	コンビーナが, 採択した論文の発表順, 発表時間(変更可能は招待講演のみ)の決定, 座長の登録を行います
ホットトピック募集	3/1-3/7	ホットトピックの開催を希望するセッションを募ります
採択通知	3/13	投稿者に採択結果を通知します
プログラム公開	3/14	全発表プログラムの日時・会場を公開します
PDF 公開	5/11	予稿 PDF を公開します

Session ID	母体 Section	言語	タイトル(日)	代表コピナー	共同コピナー1	共同コピナー2	共同コピナー3	Joint Session	JpGU団体会員共催	その他の共催学会
U-01	A	EE	JpGU-AGU Great Debate: Role of Open Data and Open Science in Geoscience	樋口 篤志	Denis-Didier Rousseau			AGU		
U-02	S	EE	Pacific-type orogeny: From ocean to mantle	Inna Safonova	辻森 樹	磯崎 行雄	小宮 剛			
U-03	S	EE	Cryoseismology – a new proxy for detecting surface environmental variations of the Earth –	豊国 源知	金尾 政紀	坪井 誠司				
U-04	H	EE	国際的・分野横断的な視点からみた地球科学分野の女性研究者の雇用とワークライフバランス	原田 尚美	堀 利栄	小口 千明	宋 苑瑞	EGU		
U-05	S	JJ	地球惑星科学における学術出版の将来	川幡 穂高	小田 啓邦					
U-06	H	JJ	連合は環境・災害にどう向き合っていくのか?	奥村 晃史	川畑 大作	青木 賢人				
U-07	H	JJ	FutureEarth-GRPsによる地球環境変化研究の統合	石井 励一郎	安成 哲三	谷口 真人	Hein Mallee	AGU		
U-08	P	JJ	地球惑星科学の進むべき道 - 8: 地球惑星科学分野における将来計画とロードマップ【日本学術会議セッション】	藤井 良一	春山 成子	田近 英一	川幡 穂高			
O-01	G	JJ	これからの高校における地球惑星科学教育—「地理総合」と「地学基礎」—	秋本 弘章	田口 康博	小林 則彦	尾方 隆幸			
O-02	G	JJ	高校生によるポスター発表	原 辰彦	道林 克禎	久利 美和	山田 耕			
O-03	G	JJ	地球・惑星科学トップセミナー	原 辰彦	道林 克禎	成瀬 元	関根 康人			
O-04	G	JJ	研究者のためのメンタルケアとコミュニケーション術	宋 苑瑞						
O-05	S	JJ	キッチン地球科学 -手を動かして頭脳を刺激する実験-	熊谷 一郎	久利 美和	栗田 敬				
O-06	H	JJ	ジオパークがつなぐ地球科学と社会 -10年の成果と課題-	松原 典孝	市橋 弥生	小原 北士	大野 希一			
O-07	H	JJ	地球科学とアート -互いの創造を拡大する-	笹岡 美穂	船引 彩子	久保 貴志	白石 智子			
P-PS01	P	EE	Outer Solar System Exploration Today, and Tomorrow	木村 淳	笠羽 康正	Vance Steven	Kunio M. Sayanagi	AGU	地球電磁気・地球惑星圏学会	
P-PS02	P	EE	Regolith Science	和田 浩二	中村 昭子	Patrick Michel	Kevin John Walsh			
P-PS03	P	EE	太陽系小天体研究:現状の理解と将来の展望	石黒 正晃	中本 泰史	荒川 政彦	安部 正真			
P-PS04	P	EE	あかつきの成果と、金星科学の深化	佐藤 毅彦	堀之内 武	山本 勝	Kevin McGouldrick	AGU		
P-PS05	P	EJ	月の科学と探査	長岡 央	諸田 智克	西野 真木	鹿山 雅裕		地球電磁気・地球惑星圏学会	
P-PS06	P	EJ	太陽系物質進化	山口 亮	藤谷 涉	癸生川 陽子	鹿山 雅裕			
P-PS07	P	EJ	火星と火星圏の科学	宮本 英昭	臼井 寛裕	松岡 彩子	Sushil K Atreya			
P-PS08	P	JJ	惑星科学	岡本 尚也	黒崎 健二				日本惑星科学会	
P-PS09	P	JJ	宇宙における物質の形成と進化	橘 省吾	三浦 均	野村 英子	大坪 貴文			
P-EM10	P	EE	Coupling Processes in the Atmosphere-Ionosphere System	Liu Huixin	Chang Loren	大塚 雄一			地球電磁気・地球惑星圏学会	
P-EM11	P	EE	Effects of recurrent storms: from the heliosphere to the atmosphere	DMITRIEV ALEXEI	三好 由純			AOGS	地球電磁気・地球惑星圏学会	
P-EM12	P	EE	Space Weather, Space Climate, and VarSITI	片岡 龍峰	Antti A Pulkkinen	草野 完也	塩川 和夫	AGU	地球電磁気・地球惑星圏学会	
P-EM13	P	EE	太陽地球系結合過程の研究基盤形成	山本 衛	小川 泰信	野澤 悟徳	吉川 顕正		地球電磁気・地球惑星圏学会	
P-EM14	P	EE	Recent Advances in Ionosphere Observation and Modeling for Monitoring and Forecast	Lin Charles	Yang-Yi Sun					
P-EM15	P	EE	Dynamics in magnetosphere and ionosphere	田中 良昌	堀 智昭	中溝 葵	尾崎 光紀		地球電磁気・地球惑星圏学会	
P-EM16	P	EE	Dynamics of Earth's Inner Magnetosphere and Initial Results from Arase	Danny Summers	三好 由純	細川 敬祐	海老原 祐輔		地球電磁気・地球惑星圏学会	
P-EM17	P	JJ	宇宙プラズマ理論・シミュレーション	梅田 隆行	三宅 洋平	成行 泰裕	中村 匡		地球電磁気・地球惑星圏学会	
P-EM18	P	JJ	大気圏・電離圏	大塚 雄一	津川 卓也	川村 誠治			地球電磁気・地球惑星圏学会	
P-EM19	P	JJ	太陽圏・惑星間空間	坪内 健	西野 真木	成行 泰裕			地球電磁気・地球惑星圏学会	
P-AE20	P	JJ	系外惑星	生駒 大洋	成田 憲保					
P-CG21	P	EE	宇宙・惑星探査の将来計画と関連する機器開発の展望	亀田 真吾	笠原 慧	尾崎 光紀	吉岡 和夫		地球電磁気・地球惑星圏学会	
P-CG22	P	JJ	アルマによる惑星科学の新展開	武藤 恭之	百瀬 宗武	佐川 英夫	下条 圭美			
P-CG23	P	JJ	惑星大気圏・電離圏	関 華奈子	今村 剛	寺田 直樹	前澤 裕之		地球電磁気・地球惑星圏学会	
A-AS01	A	EE	高性能スーパーコンピュータを用いた最新の気象科学	瀬古 弘	小玉 知央	滝川 雅之	三好 建正		日本気象学会	
A-AS02	A	EE	大規模な水蒸気場と組織化した雲システム	三浦 裕亮	濱田 篤	横井 覚	佐藤 正樹		日本気象学会	
A-AS03	A	EE	最新の気象科学:台風研究の新展開～過去・現在・未来	中野 満寿男	和田 章義	金田 幸恵	伊藤 耕介	AGU, AOGS	日本気象学会	
A-AS04	A	EE	雲降水過程の統合的理解に向けて	鈴木 健太郎	高藪 縁	Hirohiko Masunaga			日本気象学会	
A-AS05	A	EE	Precipitation Extreme	谷田貝 亜紀代						
A-AS06	A	EJ	大気化学	岩本 洋子	中山 智喜	豊田 栄	江口 菜穂		日本大気化学会	
A-AS07	A	JJ	成層圏・対流圏過程とその気候への影響	渡辺 真吾	河谷 芳雄	関谷 高志	佐藤 薫		日本気象学会, 日本大気化学会	
A-OS08	A	EE	季節から十年規模の気候変動と予測可能性	望月 崇	V Ramaswamy	森岡 優志		AGU	日本海洋学会, 日本気象学会	

A-OS09	A	EE	Marine ecosystems and biogeochemical cycles: theory, observation and modeling	伊藤 進一	平田 貴文	Eileen E Hofmann	Enrique N Curchitser	AGU	日本海洋学会	
A-OS10	A	EE	Atlantic climate variability, and its global impacts and predictability	Ingo Richter	Noel S Keenlyside	Carlos R Mechoso	Yoshimitsu Chikamoto		日本海洋学会	
A-OS11	A	EE	What we have learned about ocean mixing in the last decade	日比谷 紀之	Louis St Laurent	Ren-Chieh Lien		AGU	日本海洋学会	
A-OS12	A	EE	陸域海洋相互作用	山敷 庸亮	升本 順夫	佐々木 貴教			日本海洋学会, 水文・水資源学会	
A-OS13	A	EJ	インド洋域の物理・生物地球化学・生態系と相互連関	升本 順夫	齊藤 宏明	植木 巖			日本海洋学会	
A-OS14	A	EJ	陸域と海洋をつなぐ水循環の素過程	木田 新一郎	山崎 大	三寺 史夫	山敷 庸亮		日本海洋学会, 水文・水資源学会	
A-OS15	A	JJ	海洋と大気の変動・渦・循環力学	古恵 亮	田中 祐希	久木 幸治	杉本 憲彦		日本海洋学会, 日本気象学会	
A-OS16	A	JJ	地球温暖化・海洋酸性化に対する沿岸・近海域の海洋応答	小笠 恒夫	藤井 賢彦	芳村 毅			日本海洋学会	
A-OS17	A	JJ	沿岸域の海洋循環と物質循環	森本 昭彦	田中 潔	速水 祐一	一見 和彦		日本海洋学会	
A-OS18	A	JJ	海洋物理学一般	岡 英太郎	川合 義美	東塚 知己			日本海洋学会	
A-OS19	A	JJ	海洋化学・海洋生物学	小笠 恒夫	山田 奈海葉	齊藤 宏明	伊藤 進一		日本海洋学会	
A-HW20	A	EE	流域の物質輸送と栄養塩循環—人間活動および気候変動の影響—	齋藤 光代	小野寺 真一	細野 高啓	Adina Paytan	AGU	日本海洋学会, 日本水文科学学会, 日本堆積学会, 日本地下水学会, 土壌物理学学会, 陸水物理研究会	日本陸水学会, 日本土壌肥料学会
A-HW21	A	EE	Human-Natural system interactions and solutions for environmental management	Yuei-An Liou				AGU		
A-HW22	A	EJ	水循環・水環境	長尾 誠也	町田 功	飯田 真一	林 武司	AGU	日本水文科学学会, 水文・水資源学会, 日本地下水学会, 日本地球化学学会	
A-HW23	A	EJ	流域の地下水・地表水における滞留時間と水・物質循環プロセス	辻村 真貴	水垣 滋	勝山 正則	Gusyev Maksym		日本水文科学学会, 水文・水資源学会	
A-HW24	A	JJ	熊本地震に伴う地表水と地下水の変化	嶋田 純	中川 啓	細野 高啓	林 武司		日本水文科学学会, 日本地下水学会	
A-HW25	A	JJ	同位体水文学 2018	安原 正也					日本水文科学学会	
A-HW26	A	JJ	都市域の水環境と地質	林 武司	西田 継	鈴木 弘明	浅田 素之		日本水文科学学会	
A-CC27	A	EE	Remote Sensing of Snow	Sheldon Dean Drobot						
A-CC28	A	JJ	雪氷学	縫村 崇行	石川 守	館山 一孝	永井 裕人		日本雪氷学会	
A-CC29	A	JJ	アイスコアと古環境モデリング	植村 立	川村 賢二	阿部 彩子	竹内 望		日本雪氷学会	
A-GE30	A	EE	エネルギー・環境・水ネクサスと持続的発展	張 銘	川本 健	薛 強	Jet-Chau Wen			
A-GE31	A	EE	地質媒体における物質移動, 物質循環と環境評価	小島 悠揮	濱本 昌一郎	斎藤 広隆	森 也寸志		土壌物理学学会	
A-TT32	A	JJ	GNSS-Rが拓く新しい地球観測	市川 香	日置 幸介				日本海洋学会	
A-CG33	A	EE	Harnessing Satellite Big Data for Societal Benefits	Allen A Huang						
A-CG34	A	EE	中緯度海洋と大気	西川 はつみ	佐々木 克徳	岡島 悟	Thomas Spengler		日本海洋学会, 日本気象学会	
A-CG35	A	EE	Global Carbon Cycle Observation and Analysis	市井 和仁	Patra Prabir	町田 敏暢	David Crisp	AGU, AOGS		
A-CG36	A	EE	衛星による地球環境観測	沖 理子	本多 嘉明	高藪 緑	松永 恒雄			
A-CG37	A	EE	Asian monsoon hydro-climate and water resources research for a next GEWEX RHP	鼎 信次郎						
A-CG38	A	EJ	北極域の科学	津滝 俊	漢那 直也	鄭 峻介	中村 哲		日本海洋学会, 日本雪氷学会	
A-CG39	A	EJ	熱帯インド洋・太平洋におけるマルチスケール大気海洋相互作用	今田 由紀子	東塚 知己	時長 宏樹	小坂 優		日本海洋学会	
A-CG40	A	JJ	陸域生態系の物質循環	加藤 知道	平野 高司	佐藤 永	平田 竜一			
A-CG41	A	JJ	植物プランクトン増殖に関わる海洋—大気間の生物地球化学	宮崎 雄三	西岡 純	鈴木 光次	岩本 洋子		日本海洋学会, 日本大気化学学会, 日本地球化学学会	
A-CG42	A	JJ	沿岸海洋生態系—1. 水循環と陸海相互作用	杉本 亮	小路 淳	山田 誠	藤井 賢彦		日本海洋学会, 日本水文科学学会	水産海洋学会
A-CG43	A	JJ	沿岸海洋生態系—2. サンゴ礁・藻場・マングローブ	宮島 利宏	梅澤 有	渡邊 敦	樋口 富彦		日本海洋学会	日本サンゴ礁学会, 日本マングローブ学会, 日本熱帯生態学会
A-CG44	A	JJ	地球惑星科学における航空機観測利用の推進	高橋 暢宏	小池 真	町田 敏暢	篠田 太郎			
A-CG45	A	JJ	気候変動への適応とその社会実装	石川 洋一	渡辺 真吾	大楽 浩司			水文・水資源学会	
H-GG01	H	JJ	自然資源・環境の利用・変化・管理: 社会科学と地球科学の接点	古市 剛久	佐々木 達	上田 元	大月 義徳			
H-GM02	H	EE	Geomorphology	八反地 剛	瀬戸 真之	島津 弘			日本地形学連合	
H-GM03	H	JJ	地形	八反地 剛	瀬戸 真之	島津 弘			日本地形学連合	
H-QR04	H	JJ	第四紀: ヒトと環境系の時系列ダイナミクス	小荒井 衛	須貝 俊彦	水野 清秀	米田 穰		日本第四紀学会	
H-SC05	H	JJ	地球温暖化防?と地学(CO2地中貯留・有効利?、地球?学)	徂徠 正夫	薛 自求	愛知 正温				
H-DS06	H	EE	Advanced remote sensing toward Mega-Disaster Response	Youngjoo Kwak	竹内 渉	Biswajet Pradhan				
H-DS07	H	EE	地すべりおよび関連現象	千木良 雅弘	王 功輝	今泉 文寿		AGU, EGU		
H-DS08	H	EE	Natural hazards impacts on the society, economics and technological systems	PETROVA ELENA	松島 肇	Vivek Shandas		AGU, EGU		
H-DS09	H	EJ	海底地すべりとその関連現象	北村 有迅						
H-DS10	H	JJ	津波とその予測	山本 直孝	今井 健太郎	対馬 弘晃			日本地震学会	
H-DS11	H	JJ	湿潤変動帯の地質災害とその前兆	千木良 雅弘	小嶋 智	八木 浩司	内田 太郎		日本応用地質学会, 日本地質学会	
H-DS12	H	JJ	人間環境と災害リスク	青木 賢人	松多 信尚	須貝 俊彦	小荒井 衛		日本活断層学会, 日本第四紀学会, 日本地理学会	53

H-RE13	H	JJ	再生可能エネルギー分野での地球科学データの可能性	大竹 秀明	宇野 史睦	島田 照久	野原 大輔			
H-TT14	H	EE	Non-destructive techniques applied to stone cultural heritage	小口 千明	Celine Elise Thomachot-Schneider	Patricia vazquez		EGU	日本地形学連合	
H-TT15	H	EE	Geographic Information Systems and Cartography	小口 高	村山 祐司	若林 芳樹			地理情報システム学会, 日本地図学会, 日本地理学会	
H-TT16	H	EJ	環境リモートセンシング	島崎 彦人	近藤 昭彦	長谷川 均	石内 鉄平		日本リモートセンシング学会, 水文・水資源学会, 日本地理学会	
H-TT17	H	JJ	地理情報システムと地図・空間表現	小荒井 衛	田中 一成	中村 和彦			日本地図学会, 地理情報システム学会, 日本地理学会	
H-TT18	H	JJ	環境トレーサビリティ手法の開発と適用	陀安 一郎	中野 孝教	木庭 啓介				
H-TT19	H	JJ	浅部物理探査が目指す新しい展開	尾西 恭亮	青池 邦夫	井上 敬資	横田 俊之		物理探査学会	
H-CG20	H	EE	景観評価の国際比較	青木 陽二						
H-CG21	H	EE	気候-人間システムの相互作用	立入 郁	横島 徳太	田中 克政	高橋 潔	AGU, EGU		
H-CG22	H	EE	GLP(全球陸域研究計画)と持続可能社会の構築	氷見山 幸夫	春山 成子	王 勤学				
H-CG23	H	EE	混濁流:発生源から堆積物・地形形成まで	横川 美和	泉 典洋	中嶋 健	成瀬 元	AGU, EGU	日本堆積学会	
H-CG24	H	EJ	堆積・侵食・地形発達プロセスから読み取る地球表層環境変動	清家 弘治	山口 直文	成瀬 元	高柳 栄子		日本堆積学会, 日本地質学会	
H-CG25	H	EJ	デルタとエスチュアリー:複雑な河口システムの理解を目指して	斎藤 文紀	堀 和明	Guan-Hong Lee		AGU	日本第四紀学会	
H-CG26	H	EJ	福島第一原子力発電事故後の地域復興で科学者が今後取り組むこと	西村 拓	溝口 勝	Kosuke Noborio			土壌物理学学会	
H-CG27	H	JJ	原子力と地球惑星科学	笹尾 英嗣	佐藤 努	幡谷 竜太				
H-CG28	H	JJ	海岸低湿地における地形・生物・人為プロセス	藤本 潔						
H-CG29	H	JJ	高レベル放射性廃棄物処分: 理学・工学の両面から考える	末次 大輔	寿楽 浩太	金嶋 聰	鷺谷 威			
H-CG30	H	JJ	圏外環境における閉鎖生態系と生物システム	富田一横谷香織	木村 駿太				生態工学会	
S-GD01	S	EJ	重力・ジオイド	Takayuki Miyazaki	山本 圭香				日本測地学会	
S-GD02	S	EJ	測地学一般・GGOS	松尾 功二	横田 裕輔				日本測地学会	
S-SS03	S	EE	Induced and triggered seismicity: case-studies, monitoring and modeling techniques	Francesco Grigoli	青木 陽介	Enescu Bogdan	Luca Urpi			
S-SS04	S	EE	Nankai Trough Seismogenic Zone Experiment toward the final challenge	金川 久一	Gregory F Moore	木下 正高	Keir Becker	AOGS		
S-SS05	S	EE	Effective usage of PSHA	Matt Gerstenberger	Schorlemmer Danijel	はお 憲生	Ma Kuo-Fong	AGU		
S-SS06	S	EE	How to further develop the Collaboratory for the Study of Earthquake Predictability?	Schorlemmer Danijel	平田 直	Matt Gerstenberger	鶴岡 弘			
S-SS07	S	EE	The Role of Slow Slip Events in the Earthquake Cycle: Stressing, Triggering, and Hazard	Matt Gerstenberger	平田 直	Bill Fry	Laura M Wallace	AGU		
S-SS08	S	EJ	活断層と古地震	小荒井 衛	近藤 久雄	道家 涼介	松多 信尚		日本活断層学会, 日本地震学会, 日本第四紀学会, 日本地質学会	
S-SS09	S	EJ	地殻変動	落 唯史	大園 真子				日本地震学会, 日本測地学会	
S-SS10	S	EJ	地震波伝播:理論と応用	西田 究	白石 和也	新部 貴夫	澤崎 郁		日本地震学会, 物理探査学会	
S-SS11	S	JJ	地殻構造	青柳 恭平					日本地震学会	
S-SS12	S	JJ	地震活動	勝俣 啓					日本地震学会	
S-SS13	S	JJ	地震予知・予測	馬場 俊孝					日本地震学会	
S-SS14	S	JJ	強震動・地震災害	栗山 雅之					日本地震学会	
S-SS15	S	JJ	地震発生の物理・断層のレオロジー	向吉 秀樹	谷川 亘	松澤 孝紀	吉田 圭佑		日本地震学会	
S-EM16	S	JJ	電気伝導度・地殻活動電磁気学	山崎 健一	相澤 広記				地球電磁気・地球惑星圏学会	
S-EM17	S	JJ	地磁気・古地磁気・岩石磁気	望月 伸竜	清水 久芳				地球電磁気・地球惑星圏学会	
S-IT18	S	EE	Planetary cores: Structure, formation, and evolution	寺崎 英紀	大谷 栄治	William F McDonough	George Helffrich	AGU		
S-IT19	S	EE	Mineral-melt-fluid interaction and COHN volatile speciation in Earth and planetary	Mysen Bjorn	大谷 栄治	土屋 旬				
S-IT20	S	EE	Structure and Dynamics of Earth and Planetary Mantles	芳野 極	趙 大鵬	中川 貴司		AGU		
S-IT21	S	EE	マントルブルームは存在するか?	真島 英壽	Gillian R Foulger	趙 大鵬		AGU		
S-IT22	S	EE	核-マントルの相互作用と共進化	飯塚 毅	渋谷 秀敏	土屋 卓久	太田 健二	AGU	地球電磁気・地球惑星圏学会	
S-IT23	S	EE	New perspectives on the geodynamics of East Asia	Timothy B Byrne	山口 飛鳥	Jonny Wu	沖野 郷子			
S-IT24	S	EE	Probing the Earth's interior with geophysical observation on seafloor	末次 大輔	Guilhem BARRUOL	川勝 均	Douglas Wiens	AGU, EGU		
S-IT25	S	EE	Deep Carbon: Diamond formation and carbon speciation in Earth and planetary processes	大谷 栄治	Litasov Konstantin	鍵 裕之	Craig E Manning	AGU		
S-IT26	S	EE	地殻応力研究の最前線:観測・実験・モデリングの統合	呉 泓昱	林 為人	真田 佳典	Chan Chung-Han			
S-IT27	S	EE	地球内部での液体の特性とその役割	坂巻 竜也	中島 陽一					
S-IT28	S	EE	The lithosphere and the asthenosphere	Catherine Rychert	川勝 均			AGU, EGU		
S-GL29	S	EJ	泥火山と地球化学的・地質地形学的・生物学的関連現象	浅田 美穂	土岐 知弘	井尻 暁	辻 健			
S-GL30	S	JJ	地球年代学・同位体地球科学	田上 高広	佐野 有司					
S-GL31	S	JJ	地域地質と構造発達史	山縣 毅	大坪 誠				日本地質学会	

S-GL32	S	JJ	上総層群における下部-中部更新統境界GSSP	岡田 誠	菅沼 悠介	亀尾 浩司	久保田 好美		日本地質学会	
S-RD33	S	EJ	資源地質学	大竹 翼	荒岡 大輔	高橋 亮平	野崎 達生		資源地質学会	
S-MP34	S	EE	Oceanic and Continental Subduction Processes	Hafiz Ur REHMAN	辻森 樹	Chin Ho Tsai		AGU	日本地質学会	
S-MP35	S	EE	Antarctica and surrounds in Supercontinent Evolution	外田 智千	小山内 康人	Geoffrey Hugo Grantham	Satish-Kumar Madhusoodhan			
S-MP36	S	EE	Crust-Mantle Connections	田村 芳彦	石塚 治	Chris Conway			日本火山学会, 日本地質学会	
S-MP37	S	EJ	変形岩・変成岩とテクトニクス	中村 佳博	針金 由美子				日本地質学会	
S-MP38	S	JJ	鉱物の物理化学	大藤 弘明	鎌田 誠司				日本鉱物科学会	
S-VC39	S	EE	Pre-eruptive magmatic processes: petrologic analyses, experimental simulations and dynamics modeling	中村 美千彦	東宮 昭彦	Shanaka L de Silva	Costa Fidel	AGU, AOGS, EGU	日本火山学会	
S-VC40	S	JJ	火山防災の基礎と応用	吉本 充宏	宝田 晋治	石峯 康浩	久保 智弘		日本火山学会	
S-VC41	S	JJ	活動的火山	前田 裕太 大倉 敬宏	三輪 学史 奥村 聡	青木 陽介 小園 誠史	西村 太志		日本火山学会	
S-VC42	S	JJ	火山の熱水系	藤光 康宏	神田 径	大場 武			日本火山学会, 日本地球化学会, 日本地熱学会	
S-VC43	S	JJ	火山・火成活動および長期予測	及川 輝樹	長谷川 健	三浦 大助	下司 信夫		日本火山学会, 日本地質学会	
S-VC44	S	JJ	島弧の火成活動と火山ダイナミクス	鈴木 雄治郎	中村 仁美	入山 宙			日本火山学会	
S-GC45	S	EE	Volatile Cycles in the Deep Earth - from Subduction Zone to Hot Spot	佐野 有司	羽生 毅	角野 浩史				
S-GC46	S	JJ	固体地球化学・惑星化学	下田 玄	鈴木 勝彦	山下 勝行	石川 晃		日本地球化学会	
S-TT47	S	EE	Recent Advances in Exploration Geophysics (RAEG2018)	三ヶ田 均	飯尾 能久	島 伸和	武川 順一			
S-TT48	S	EJ	合成開口レーダー	森下 遊	小林 祥子	木下 陽平	阿部 隆博		日本測地学会, 日本リモートセンシング学会	
S-TT49	S	EJ	空中からの地球計測とモニタリング	楠本 成寿	大熊 茂雄	小山 崇夫	光畑 裕司		物理探査学会	
S-TT50	S	JJ	地震観測・処理システム	吉見 雅行					日本地震学会	
S-TT51	S	JJ	ハイパフォーマンスコンピューティングが拓く固体地球科学の未来	堀 高峰	八木 勇治	汐見 勝彦				
S-CG52	S	EE	Intraslab and intraplate earthquakes	北 佐枝子	大内 智博	Thomas Pascal Ferrand	岡崎 啓史	AGU, EGU		
S-CG53	S	EE	Science of slow earthquakes: Toward unified understandings of whole earthquake process	井出 哲	廣瀬 仁	氏家 恒太郎	波多野 恭弘	AGU, EGU		
S-CG54	S	EE	ハードロック掘削 オマーンから海洋リソスフェア, 島弧形成+	高澤 栄一	道林 克禎	Peter B Kelemen	Damon A H Teagle	AGU, EGU		
S-CG55	S	EE	Various interactions between solid Earth and climates	中川 貴司	横山 祐典	奥野 淳一	山崎 雅			
S-CG56	S	EE	アジア地域の地震・火山・テクトニクス	趙 大鵬	磯崎 行雄	Jianshe Lei				
S-CG57	S	EJ	変動帯ダイナミクス	深畑 幸俊	竹下 徹	岩森 光				
S-CG58	S	EJ	沈み込み帯へのインプットを探る: 海溝海側で生じる過程の影響	山野 誠	森下 知晃	藤江 剛				
S-CG59	S	EJ	日本列島の構造と進化: 島弧の形成から巨大地震サイクルまで	佐藤 比呂志	篠原 雅尚	石川 正弘	松原 誠			
S-CG60	S	JJ	岩石・鉱物・資源	門馬 綱一	野崎 達生	齊藤 哲	土谷 信高		日本鉱物科学会, 日本地質学会, 資源地質学会	
S-CG61	S	JJ	海洋底地球科学	沖野 郷子						
S-CG62	S	JJ	地殻?体と地殻変動	小泉 尚嗣	梅田 浩司	松本 則夫	田中 秀実			
S-CG63	S	JJ	地球惑星科学におけるレオロジーと破壊・摩擦の物理	桑野 修	清水 以知子	石橋 秀巳	田阪 美樹			
S-CG64	S	JJ	脆性延性境界と超臨界地殻流体: 島弧地殻エネルギー	土屋 範芳	浅沼 宏	小川 康雄			日本地熱学会	
S-CG65	S	JJ	地震動・地殻変動・津波データの即時把握・即時解析・即時予測	干場 充之	川元 智司	山本 直孝	小木 曾 仁			
S-CG66	S	JJ	3次元地質モデリングとシミュレーションの新展開	高野 修	木村 克己					
S-CG67	S	JJ	海底下の変動現象を捉えるための海域観測の現状と展望	平原 和朗	日野 亮太	堀 高峰				
B-A001	B	EE	アストロバイオロジー	藪田 ひかる	杉田 精司	深川 美里	藤島 皓介			
B-BG02	B	JJ	生命-水-鉱物-大気相互作用	高井 研	中村 謙太郎	上野 雄一郎	鈴木 庸平			
B-BG03	B	JJ	地球惑星科学と微生物生態学の接点	砂村 倫成	濱村 奈津子	木庭 啓介	諸野 祐樹			
B-PT04	B	EE	バイオミネラリゼーションと環境指標	豊福 高志	北里 洋	Bijma Jelle	廣瀬 孝太郎	EGU	日本古生物学会	
B-PT05	B	EJ	化学合成生態系の進化をめぐる	ジェンキンス ロバート	渡部 裕美	延原 尊美			日本古生物学会	
B-PT06	B	JJ	地球生命史	本山 功	生形 貴男	守屋 和佳			日本古生物学会	
B-CG07	B	EE	地球惑星科学 生命圏フロンティアセッション	高野 淑識	鈴木 庸平	福士 圭介	加藤 真悟	AGU	日本地球化学会	
B-CG08	B	EE	深宇宙と深海から挑む生命探査科学	矢野 創	Christophe Sotin	高井 研		AGU		
B-CG09	B	JJ	地球史解説: 冥王代から現代まで	小宮 剛	加藤 泰浩	鈴木 勝彦				
B-CG10	B	JJ	顕生代生物多様性の変遷: 絶滅と多様化	磯崎 行雄	澤木 佑介					
G-01	G	EE	Geoethics for Today's Geoscientists: Awareness, Responsibility and Challenges	Billy M Williams	Christine McEntee	Eric A Davidson	末広 潔	AGU		
G-02	G	EE	Communicating Hazard and Risk - Disaster Resilience, Community Involvement, Communication Strategies	Schorlemmer Danijel	平田 直	木村 玲欧	大友 章司			
G-03	G	JJ	災害を乗り越えるための「総合的防災教育」	中井 仁	小森 次郎	林 信太郎				55

G-04	G	JJ	地球惑星科学のアウトリーチ	植木 岳雪	小森 次郎	長谷川 直子	大木 聖子			
G-05	G	JJ	小・中・高等学校、大学の地球惑星科学教育	畠山 正恒						
M-IS01	A	EE	アジア・モンスーンの進化と変動、新生代寒冷化との関連	山本 正伸	多田 隆治			AGU	地球環境史学会	
M-IS02	H	EE	ジオパーク、ジオサイトおよび石造文化財の保存修復：風化プロセスとダメージアセスメント	小口 千明	藁谷 哲也			EGU	日本地形学連合	
M-IS03	S	EE	Interdisciplinary studies on pre-earthquake processes	服部 克巳	劉 正彦	Ouzounov Dimitar	Qinghua Huang	AGU, AOGS, EGU		
M-IS04	P	EE	Thunderstorms and lightning as natural hazards in a changing climate	佐藤 光輝	久保田 尚之	山下 幸三	高橋 幸弘			
M-IS05	A	EE	Satellite Land Physical Processes Monitoring at Medium and High Resolution	Jean-Claude Roger	Shinichi Sobue	Eric Vermote				
M-IS06	A	EJ	南大洋・南極氷床が駆動する全球気候変動	関 宰	岡 顕	真壁 竜介	植村 立			
M-IS07	P	EJ	結晶成長、溶解における界面・ナノ現象	木村 勇気	三浦 均	塚本 勝男	佐藤 久夫			
M-IS08	S	EJ	地球掘削科学	山田 泰広	黒田 潤一郎	氏家 恒太郎	菅沼 悠介			
M-IS09	S	JJ	地震・火山等の地殻活動に伴う地圏・大気圏・電離圏電磁現象	児玉 哲哉	長尾 年恭	芳原 容英				
M-IS10	A	JJ	古気候・古海洋変動	岡崎 裕典 長谷川 精	磯辺 篤彦 岡 顕	北村 晃寿 加 三千宣	佐野 雅規		日本海洋学会, 日本古生物学会, 地球環境史学会	
M-IS11	H	JJ	津波堆積物	篠崎 鉄哉	千葉 崇	石村 大輔				
M-IS12	H	JJ	ジオパーク	尾方 隆幸	植木 岳雪	大野 希一	田所 敬一		日本火山学会, 日本地震学会, 日本第四紀学会, 日本地形学連合, 日本地質学会	
M-IS13	S	JJ	海底～海面を貫通する海域観測データの統合解析	有吉 慶介	木戸 元之	稲津 大祐	高橋 成実			
M-IS14	B	JJ	生物地球化学	木庭 啓介	柴田 英昭	大河内 直彦	山下 洋平			
M-IS15	A	JJ	地球流体力学: 地球惑星現象への分野横断的アプローチ	伊賀 啓太	吉田 茂生	柳澤 孝寿	相木 秀則			
M-IS16	S	JJ	火山噴煙・積乱雲のモデリングとリモートセンシング	佐藤 英一	前野 深	前坂 剛			日本火山学会, 日本気象学会	
M-IS17	S	JJ	ガスハイドレートと地球環境・資源科学	戸丸 仁	八久保 晶弘	谷 篤史	後藤 秀作			
M-IS18	P	JJ	水惑星学	関根 康人	臼井 寛裕	玄田 英典	渋谷 岳造			
M-IS19	A	JJ	大気電気学	芳原 容英	鴨川 仁					
M-IS20	B	JJ	遠洋域の進化	松岡 篤	栗原 敏之	尾上 哲治	木元 克典		形の科学会, 日本古生物学会	
M-IS21	A	JJ	南北両極のサイエンスと?型研究	中村 卓司	杉本 敦子	杉山 慎	野木 義史			
M-GI22	A	EE	Data assimilation: A fundamental approach in geosciences	中野 慎也	藤井 陽介	宮崎 真一	三好 建正		日本海洋学会, 日本気象学会, 日本地震学会, 地球電磁気・地球惑星圏学会	
M-GI23	A	EE	Open Science as a New Paradigm: Research Data Sharing, Infrastructure, Scientific Communications, and Beyond	村山 泰啓	近藤 康久	Cecconi Baptiste	Toczko Sean	AGU		
M-GI24	H	JJ	Building Disasters resilient societies through sustainable marine and coastal Governance.	Kalpana Chaudhari						
M-GI25	A	JJ	山岳地域の自然環境変動	鈴木 啓助	苅谷 愛彦	奈良間 千之	佐々木 明彦			
M-GI26	A	JJ	情報地球惑星科学と大量データ処理	村田 健史					日本情報地質学会	
M-GI27	S	JJ	データ駆動地球惑星科学	桑谷 立	長尾 大道	堀 高峰				
M-GI28	P	JJ	計算科学による惑星形成・進化・環境変動研究の新展開	林 祥介	小河 正基	井田 茂	草野 完也			
M-GI29	A	JJ	オープンデータ&サイエンスの近年の状況	樋口 篤志	近藤 康久					
M-GI30	S	JJ	ソーシャルメディアと地球惑星科学	天野 一男	小口 高	伊藤 昌毅	山本 佳世子			
M-AG31	S	EE	CTBTO – Four IMS Technologies for Detecting Nuclear Explosion on the Planet and Their Applications to Earth Science	Nurcan Meral ?zel	松本 浩幸	直井 洋介	Lassina Zerbo			
M-AG32	S	EJ	海洋地球インフォマティクス	坪井 誠司	高橋 桂子	金尾 政紀				
M-AG33	A	EJ	福島原発事故により放出された放射性核種の環境動態	北 和之	恩田 裕一	篠原 厚	津旨 大輔			
M-SD34	P	JJ	宇宙食と宇宙農業	片山 直美						
M-TT35	H	EE	高精細地形・地球物理データ解析	早川 裕弐	Gomez Christopher	楠本 成寿		AGU, EGU		
M-TT36	H	EE	Environmental Remote Sensing	Wei Yang	作野 裕司	近藤 昭彦				
M-TT37	A	JJ	地球化学の最前線: 高度分析装置と地球惑星科学	角皆 潤	高橋 嘉夫	飯塚 毅			日本地球化学会	
M-TT38	S	JJ	インフラサウンド及び関連波動が繋ぐ多圏融合地球物理学の新描像	山本 真行	新井 伸夫	市原 美恵				
M-ZZ39	A	EE	Environmental, socio-economic and climatic changes in Northern Eurasia	Groisman Pavel	Erwan Monier	Shamil Maksyutov				
M-ZZ40	H	JJ	地球科学の科学史・科学哲学・科学技術社会論	矢島 道子	青木 滋之	山田 俊弘	吉田 茂生			
M-ZZ41	S	JJ	海底マンガン鉱床の科学: 基礎から応用まで	臼井 朗	高橋 嘉夫	鈴木 勝彦	伊藤 孝			

### セッション数

	English		Japanese	Total
	EE	EJ	JJ	
2016年	63		131	194
2017年	107	45	101	253
2018年	91	32	112	235

# AGU Fall Meeting 2017 における ブース出展および JpGU 参加報告書

地球惑星科学分野において、世界最大の規模である American Geophysical Union の 2017 Fall Meeting が (2017 年 12 月 11-15 日)、ニューオーリンズ アーネスト N.モリアルコンベンションセンターで開催され、日本地球惑星科学連合は展示企画に参加した。2014 年よりアイランドブースに拡大した展示では、AGU とのフルジョイントとなった 2017 年の JpGU-AGU Joint Meeting 2017 のお礼と JpGU Meeting 2018,その後控えている 2 度目の AGU とのフルジョイントミーティングとなる JpGU-AGU Joint Meeting 2020、および横浜で開催予定の JpGU Meeting 2021 の宣伝 PR に努めた。他に、2014 年 4 月に創刊された連合の公式ジャーナルの紹介、および連合の団体会員である地球惑星科学関連学協会の国際ジャーナルの広報、加えて、日本におけるポスドクの受け入れなどの説明の為、JSPS サンフランシスコオフィスより資料を送付いただき、参加者の質問に答えた。遠方である為、担当者の参加はかなわなかったが、バーコードスキャナーで読み取った来訪者データを担当にお送りし、ブースを訪れた参加者に直接連絡をしてもらったこととした。本報告では、イベントにおける概要、出展内容・結果などを報告する。

## 1. AGU Fall Meeting 2017 概要

名称	AGU Fall Meeting 2017
日時	2017 年 12 月 11 日 (月) ~15 日 (金)
会場	New Orleans Ernest N. Morial Convention Center
参加者数	Not announced yet / from 92 countries
セッション・発表数	1,916 セッション・20,810 件(Oral:8,017/Poster:12,793)
出展ブース数	309 (including 47 Academic Showcase)
ウェブサイト	<a href="http://fallmeeting.agu.org/2017/">http://fallmeeting.agu.org/2017/</a>

### ◎会期中のイベント

※イベントはこの他にも多数あったが、JpGU と関連があるもしくは JpGU 関係者が参加したイベントを記載している。

12 月 10 日 (日)	13:00-17:00	Field Trip for Press
	17:00-18:30	International Reception
12 月 11 日 (月)	18:00-20:00	Ice Breaker Reception ※Jazz 演奏が見られた
12 月 12 日 (火)	7:00-8:00	Student Breakfast
	16:00-18:00	AGU-JpGU Great Debate
12 月 13 日 (水)	18:00-20:00	Honors Ceremony
	20:30-23:00	Honors Banquet

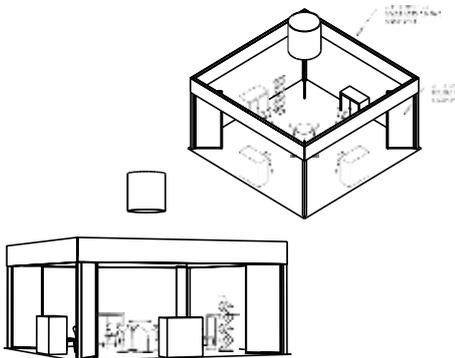
## 2. JpGU ブース

JpGU ブースは入り口からの距離は多少あったが、見つけやすい位置であったという声が多かった。(下記図参照)  
 2015年度より導入した、ハンギングサインが遠くからもよく見えるとのこと今年も好評であった。このハンギングサインは一年間\$650 で昨年度と同じ業者に保管を依頼し、今年度も再度使用した。来年も引き続き保管してもらおうことになっている。

### 展示会場図 (ブース位置) Booth #845



#### <ブースの外観>



- 1. Circle Hanging Sign 4'DIA X 4'H(直径 121.92cm (円周 383) X 高さ 121.92cm)
- 2. サイドパネル 8 枚
- 3. カウンタ前面 4 枚

## <“Geoscience Japan” 出展内容詳細>

ブース内エリアをテーマ毎に4分つに分割した。

### 1) 日本地球惑星科学連合エリア (2面)

#### 【出展内容】

- ・JpGU Meeting 2018 および JpGU Meeting 2019, JpGU-AGU Joint Meeting 2020, JpGU Meeting 2021 in Yokohama の宣伝紹介
- ・日本地球惑星科学連合およびそのセッション活動紹介
- ・日本地球惑星科学連合のロゴを掲載している国際誌の紹介・宣伝
  - Earth, Planets and Space (SGEPSS)
  - Mineralogical Petrological Sciences (日本鉱物科学会)
  - Geochemical Journal (日本地球化学会)
  - Hydrological Research Letters (水文・水資源学会)
  - Journal of Agricultural Meteorology (日本農協気象学会)
  - Resource Geology (資源地質学会)

#### <PR 用配布物>

- 連合の紹介パンフレット 400部
- JpGU Meeting 2018 リーフ 900部
- JpGU-AGU Joint Session リスト
- JpGU-EGU Joint Session リスト
- JpGU-AOGS Joint Session リスト
- JpGU Meeting 2018 総セッションリスト

#### 【出展結果・来場者の傾向】

今回はアイランドブースも4年目、ということで、JpGUのブースを知っていて訪れてくれる参加者とゆっくりブースで話げできた。話をさせていただいた参加者のうち半数以上は当連合を知っている、あるいは参加したことがあり、昨年までは販促グッズをもらう目的でブースを訪れる参加者も見られたが、本年度は本当に Meeting に興味をもった方が自主的にブースを訪れてくれた印象である。ブースは日本人参加者の待ち合わせ、小打ち合わせなどの場の役目もはたしていた。来年度は最初にブース予約をした JpGU の周りに Jamstec, ERI, JAXA など皆集まって予約してくれた。Jamstec の加賀谷氏からは AGU FM 2019 には All Japan で出展できるよう、JpGU が声をかければ Jamstec としては検討の余地があるとの助言があった。

【ブース担当：事務局 白井佳代子・井出幸子】

### 2) PEPS エリア

#### 【出展内容】

- ・連合ジャーナル Progress in Earth and Planetary Science(PEPS) の 紹介および投稿の呼びかけ
- ・投稿サイト、投稿方法などの案内
- ・出版済み論文のプリントアウト

#### 【出展結果・来場者の傾向】

2017/12/11-12/15 にアメリカ、ニューオーリンズ、モリアル国際会議場で開催された、2017 AGU (American Geophysical Union) Fall Meeting に JpGU/PEPS ブースを出展し、オープンアクセス・ジャーナル PEPS の認知度を高め、読者を増やし、投稿を促すための宣伝活動を行った。

従来通り、PEPS のインパクト・ファクター (IF) 値についての問い合わせは多かったが、急遽準備した IF 取得予定を紹介する

パンフレットが説明の際に非常に役立った。また、編集を担当した研究者からは、「congratulations」と声をかけられる事が何度もあり、出版経験者からは IF の重要性への理解と PEPS への興味を示してもらえた。さらに、PEPS に IF が付く事を強くアピールしたためか、以前に比べ、対象分野や掲載料（APC）などの具体的な質問が増え、PEPS への認知度が一歩進んだ手ごたえを感じた。また、学生や PD を中心に、連合大会で準備した Review 論文中心に abstract を載せているパンフレットを使用して Review 論文を積極的に紹介した。その場で、興味のある論文の QR コードを使って論文にアクセスする学生の姿も見られた。論文サンプルも印刷して配布したが、PEPS の扱う分野が一目で見える事もあり、連合大会用パンフレットは PEPS の特徴を紹介するのに有効なので、Review 論文を出版していない分野の代表的な論文の紹介も必要かと思った。

今回は、川幡先生はじめ連合関係の先生方がブースに在席される事も多く、心強かった。

（配布物）：

地球儀パンフ 480、連合大会パンフ 366、IF パンフ 368、印刷論文 57 部、ノベルティ（テープのり 800 個、メモ帳 370 個）。ノベルティは昨年のブランケットほどの行列はできないものの、まずまず好評だった。

今回もバーコード・スキャナーをレンタルし、約 580 名の来場者の情報を収集し、AGU 終了後の来場御礼メールに役立てた。昨年に比べ 150 名ほどスキャンした来場者数は少なかったが、昨年より多くの来場者に PEPS の説明ができた。

PEPS のサイトから論文をダウンロードした事がある、今年の連合大会に参加した、去年も来てたねといった好意的な来場者も増えているので、継続的にブース出展して PR していく事は重要だと感じた。

### 3) 日本学術振興会(JSPS)エリア

【出展内容】

・日本学術振興会国際交流事業（特に外国人招へい研究者）の宣伝紹介

<PR 用配布物>

- ・Fellowships for Research in Japan 2016(英文)280 部
- ・国際事業部事業案内（英文）60 部

例年通り、全体として絶え間なくブースへの来訪者があった。今回は JSPS からスタッフの派遣がなかった為、奥村晃史理事、安成哲平理事などが積極的に対応くださった。具体的な質問には後ほど JSPS SF より直接連絡してもらうこととした。

<次年度の予約>

来年度のブース予約も Spargo と Fall Meeting 中に行った。ほぼ本年度と同じスペース # 1247 を予約した。

FM2018 では、JAMSTEC が JpGU の向いの #1147、ERI が #1350、DARTS JAXA/ISAS が #1251 と JpGU の近くに予約をいれ、All Japan で協力する体制になった。



## 3. 会期中のミーティング

### 1. Leadership Get-Together

**Date and Time:** December 12, TUE, 8:30AM-9:30AM

**Place:** MCCNO, Mezzanine, Ma Maison

**Attendees:** JpGU: Hodaka Kawahata, Takashi Furumura, Kiyoshi Suyehiro, Yukihiro Takahashi, Yasuhiro Murayama, Masataka Kinoshita, Satiko Ide, Kayoko Shirai

### 2. Meeting on preprint server with Brooks Hanson

**Date and Time:** December 12, TUE, 9:30AM-11:00AM

**Place:** MCCNO, Mezzanine, Ma Maison

**Attendees:** JpGU: Kiyoshi Suyehiro, Yasuhiro Murayama, Kayoko Shirai  
AGU: Brooks Hanson

### Other informal meetings

#### 1. Meeting with NASA

**Date and Time:** Dec 13, Wednesday, 4PM-5PM

**Place:** Exhibitor's Lounge

**Attendees:**

JpGU Go Murakami, ISAS/JAXA

Kiyoshi Suyehiro, International Program Coordinator

Atsushi Kyono, JpGU Meeting Organizing Committee

Masahito Nose, JpGU Meeting Organizing Committee

Kayoko Shirai, International Program Manager

NASA Winnie Humberson, Task Lead, NASA Science Outreach Support Office

#### 2. Meeting with AOGS

**Date and Time:** Dec 14, Thursday, 10:50AM-11:30AM

**Place:** Exhibitor's Lounge

**Attendees:**

JpGU Kiyoshi Suyehiro, International Program Coordinator

Kayoko Shirai, International Program Manager

AOGS Cheng-Hoon Khoo, Meetmatt

### 3. Meeting with EGU

**Date and Time:** Dec 15, Friday, 9:30AM-10:00AM

**Place:** EGU Booth

**Attendees:** JpGU Kiyoshi Suyehiro, International Program Coordinator  
Kayoko Shirai, International Program Manager  
EGU Philippe Courtial, Executive Secretary

## 4. 会期中のイベント

### 1. AGU-JpGU Great Debate

**Date and Time:** Dec 12, Tuesday, 4:00PM-6:00PM

**Place:** E2, New Orleans Ernest N. Morial Convention Center

**Conveners:** Denis Didier Rousseau, AGU Fall Meeting Chair  
Atsushi Higuchi, JpGU Meeting 2018 Program Committee Chair

**Panelist from JpGU:** Atsushi Toramaru, Kyushu University  
Takahiro Sayama, Kyoto University

### 2. Honors Ceremony

**Date and Time:** Dec 13 Wednesday 6:00PM-8:00PM

**Place:** New Orleans Theatre, New Orleans Ernest N. Morial Convention Center

川幡会長が、JpGU 代表として 第3回平賞 (Asahiko Taira International Scientific Ocean Drilling Research Prize)受賞者 Michael Strasser 氏に贈呈をおこなった。

又、宇宙航空研究開発機構 (JAXA) の中島映至氏が fellow を受賞した。



## 5. その他

この他、プレス向けのフィールドトリップ、学生プログラム、学生賞等大会の運営に関しては別途関連委員会に報告をあげることとする。

## 教育検討委員会 報告

### 1) 地学オリンピック

第 10 回日本地学オリンピック予選(国際タイ大会一次選抜)

予選 募集 9 月 1 日から 11 月 15 日 2211 名(一昨年 2146 名、昨年 1924)

実施 12 月 17 日 1903 名受験(応募 2211 名) 73 会場

未受験者県 (福井、鳥取、宮崎)、

結果(本選進出。男子 56 名、女子 4 名)(公立校 19 名)

本選 3 月 11 日から 13 日 筑波大学

(女性 TOP に日本地球惑星科学連合賞授与)

国際大会 8 月 8 日から 17 日。タイ(カンチャナブリー)。

### 2) 教育国際対応小委員会

Earth Science Week Japan (静岡)を準備中。

2018 年 10 月 13 日(土)~14 日(日)

主催:アースサイエンスウィーク・ジャパン実行委員会

(同小委員会の一部メンバーを含む)

共催:静岡県立ふじのくに地球環境史ミュージアム、静岡大学、JpGU (予定)

後援:JAMSTEC(予定)

場所:静岡大学、静岡県立ふじのくに地球環境史ミュージアム、伊豆ジオパーク

内容:講演会 (小中学生向け・一般市民向け)、伊豆ジオパーク巡検(参加者負担)

等 予定

\*アースサイエンスウィーク・ジャパンの開催のために、JAMSTEC の小俣氏が新たに教育国際対応小委員会の委員に加わった。

2018年1月23日 JpGU 理事会資料

情報システム委員会報告

- 1) 情報システム委員会規則改定の検討状況について
- 2) AGU の ESSI セクション (Earth & Space Science Informatics Section) Executive Committee への参加について
- 3) AGU プレプリントサーバー-ESSOAr (Earth and Space Science Open Archive) の準備状況

## 情報システム委員会規則

(趣旨)

**第1条** この規則は、定款及び法人運営基本規則に基づき、情報システム委員会に関し必要な事項を定めるものとする。

(任務)

**第2条** 情報システム委員会は、情報システムの策定及び運用管理を担当し、他の各委員会と連携して情報システムの円滑な運用を図る。また地球惑星科学研究の推進に関わる研究情報の流通や利用推進を図るために必要な事項（オープンサイエンス、研究データ共有等をふくむ）について審議を行う。

2 情報システム委員会は、前項の業務の遂行について必要な事項を審議し、その結果を理事会に報告する。また、情報システムに関し、理事会からの諮問に応じ、又は理事会に意見を述べる。

(情報システム)

**第3条** 情報システム委員会が運用管理する情報システムについては別途定める。

(委員の任期)

**第4条** 委員の任期は12年とし、再任を妨げない。

(委員長及び副委員長の任期)

**第5条** 委員長及び副委員長の任期は、委員の任期による。

附則

本規則は、この法人の設立の登記の日に遡って適用されるものとする。

2014年8月23日 理事会改正

(改訂情報?)